

## 意見検討結果一覧表

### 「いわて農業生産強化ビジョン」(素案)に係る意見募集

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
1	はじめに	-	-	<p>地域農業の核となる経営体を育成することは重要だが、具体的にどのような経営体をどのくらい育成するか、営農類型を示す必要があると思う。さらに、この積み上げが、全体の生産量と農地集積の目標に結び付くようにすればよいと思う。</p>	<p>県では、農業経営基盤強化促進法第5条の規定に基づき策定している、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」において、効率的かつ安定的な農業経営や、新たに農業を営もうとする青年等の農業経営の目標を定め、本県において展開されている主な営農類型ごとに、経営規模、生産方式等を経営形態別に示しています。</p> <p>御意見を踏まえ、本ビジョンにおいて、生産者が、見通しを持って生産活動に取り組むことができるよう、基本方針で示している、経営形態別の営農類型等を参考資料に盛り込みました。</p>	A (全部反映)
2	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	<p>目指すべき目標には賛同するが、掲げた目標を我が集落に重ね合わせるととても難しく、厳しい状況や情勢がある。県のビジョンに近づける為にも以下の項目を意見とする。</p> <p>当地域も多くの課題があり、まず生産基盤の整備(ほ場整備事業)が急務となっている。当地域は、昔ながらの農地が多く、農道、水路(給排水)等の未整備の箇所があり、農業生産に苦慮している。そこで、ほ場整備等の話し合いをしているが、ほ場整備の順番待ちとのことから、ある程度の年数を覚悟しなければいけない状況にあり、集落内の耕作者の平均年齢が69歳と高く、今後の集落内の農地を維持・管理することが難しい状況にある。多くの生産者からは、あきらめの声があがり、なんとか次の世代へ継承できるためにもとお願いしているところである。そこで、農業生産の基盤整備の時間短縮と早期にできる方策を具体的に記述してほしい。</p> <p>ほ場整備事業が実現することで、我が集落は大きく前進し、法人化、スマート農業、農業所得の拡大、担い手の確保・育成、環境負荷軽減等につながるものと信じている。我が集落に夢と希望をお願いする。</p>	<p>御意見のとおり、農業者の減少・高齢化が進む中、農地を次の世代に継承していくためには基盤整備が重要であり、ほ場整備の工期短縮については重要な課題と認識しています。</p> <p>「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、「基盤整備が早期に進むよう取り組む」との基本方向を追記するとともに、その具体的な取組としてほ場整備に加え畦畔除去などの簡易な整備も併せて進めることを追記しました。</p> <p>また、基盤整備の時間短縮に向けて、必要な予算の確保に努めつつ、整備コストの縮減を図ることとしており、具体的には別途「農業農村整備事業コスト縮減計画(2025~2028)」を策定し鋭意取組を進めているところです。</p>	A (全部反映)
3	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	<p>「いわて農業生産強化ビジョン」については、食料・農業・農村基本法及び「食料・農業・農村基本計画」の改正に対応すべく、本県農業の展望と農業生産の今後のビジョンが示されており、県内市町村の農業行政の規範として捉えている。</p> <p>本町は、典型的な中山間地域であり、気候条件の不利な地域となっている。さらに、冬は県内屈指の豪雪地帯となっていることから、このことを踏まえた本町の農業政策の推進に特段の支援をお願いしたい。</p>	<p>県では、中山間地域において、農業生産条件の不利を補正し、農業生産活動の継続が図られるよう、国の「中山間地域等直接支払制度」を活用し、支援を行っているところです。</p> <p>今後も、本制度の見直しの動向などについて注視しながら、国に必要な対応を働きかけていきます。</p>	C (趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
4	その他	その他	その他	令和6年度末に示される「食料・農業・農村基本計画」に伴う、令和9年度以降に係る各種改正に向けた取組に支援をお願いしたい。	本ビジョンは、「食料・農業・農村基本計画」も踏まえつつ、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げる政策を一層推進するため策定するものであり、ビジョンの推進に当たっては、定期的な意見交換を通じ、県と市町村との連携を一層強化することとしています。 こうした意見交換の実施などにより、市町村が行う取組を支援していきます。	C(趣旨同一)
5	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	担い手に対する機械導入に係る支援について、柔軟な採択要件の運用をお願いしたい。	担い手に対する機械導入に係る支援の拡充を図るため、令和7年度から、地域農業計画実践支援事業において、農村型地域運営組織(農村RMO)及び中山間地域等直接支払制度の協定参加者を事業実施主体に追加したところです。 御意見も踏まえ、引き続き、きめ細かな支援を検討していきます。	D(参考)
6	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	「食の匠」のネットワークを生かし、新しい岩手の食文化の形成や、「食の匠」の若い方々への普及に取り組んではどうか。	食の匠の取組については、「いわて農業農村活性化推進ビジョン」に位置付けています。御意見を参考に、今後の取組を進めていきます。	D(参考)
7	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	女性の農業委員の拡大など、女性の地位向上が重要である。	地域農業の方針策定等への女性農業委員の参画が重要であることから、御意見を踏まえ、農業委員等への女性登用の拡大を追記しました。	A(全部反映)
8	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	地域の子ども食堂に対する応援、病院、福祉施設における地域食材の活用の促進など、食の地域内循環システムの構築に取り組んではどうか。	地域食材の活用促進に取り組んでいる病院や福祉施設等を「いわて地産地消給食実施事業所」に認定し活用促進に取り組んでいます。子ども食堂に関しては、今後の取組の参考とさせていただきます。	D(参考)
9	その他	その他	その他	新しいグリーン・ツーリズムの推進など、都市との交流人口の拡大に取り組んではどうか。	県では、都市との交流人口拡大を図るため、多様な旅行者ニーズに対応できる人材の確保・育成や、農山漁村への体験型教育旅行の誘致活動等を実施しており、さらに、令和7年度からは、各地域協議会の活性化支援や広域連携による教育旅行等受入体制の整備支援等に取り組んでいるところです。 御意見も踏まえ、引き続き、都市との交流人口の拡大に向けた施策を検討していきます。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
10	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	<p>農業従事者の人口が減少する現状では、効率化や生産性の向上を進める上で大切なことの一つに「関係者の心と心のつながりを深めること(コミュニティの絆の強化)」が挙げられると思う。</p> <p>今回のビジョンは素晴らしい内容で大賛成であり、上記概念は既に広がっているため、ビジョンのどこか(第1章「はじめに」あるいは第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」など)に、一言、「コミュニティの絆の強化」のような文言を加えると、現場が動きやすくなるように思う。是非御検討いただきたい。</p> <p>《家族農業経営の経営環境の整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模・家族経営などの地域を支える多様な生産者による、地域の農業・農村を維持する取組(コミュニティの絆の強化など)を推進します。</li> </ul>	御意見を踏まえ、家族農業経営の経営環境の整備において、小規模・家族経営等の地域を支える多様な生産者や地域住民などが参画・連携した地域コミュニティ活動の支援による、地域の農業・農村を維持する取組を推進を盛り込みました。	A(全部反映)
11	その他	その他	その他	担い手の確保・育成と産地づくりが極めて重要であり、実現に向けた予算の確保に努めていただきたい。	<p>本ビジョンは、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示し、本県農業を強化するため策定するものです。</p> <p>ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、取組の内容や規模については、御意見も踏まえ、毎年度の予算編成において検討していきます。</p>	D(参考)
12	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	その他	各地域における取組事例を更に盛り込むなど、農業者が関心を持てる工夫や周知活動に取り組んでいただきたい。	<p>本ビジョンの推進に当たっては、地域における優良事例を共有し、横展開を図っていくことが重要であり、御意見を踏まえ、各地域の取組事例を更に盛り込みました。</p> <p>また、本ビジョンの推進に当たっては、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化することとしており、こうした取組などにより、ビジョンの周知を図っていきます。</p>	A(全部反映)
13	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	生産基盤の強化の中で記載されている生産基盤の整備を確実に実施して行くには、基盤整備事業への予算増額が不可欠で、現在実施している事業の早期完了が望まれる。また、新規採択地区の早期着手も必要と考える。	<p>御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。</p> <p>さらに、基盤整備の早期完了に向けて、必要な予算の確保に努めつつ、整備コストの縮減を図ることとしており、具体的には別途「農業農村整備事業コスト縮減計画(2025～2028)」を策定し鋭意取組を進めているところです。</p>	A(全部反映)
14	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	産地づくりを支える人材の確保・育成の中で地域計画の記載があるが、地域計画を作成したメリットが農業者にわかりづらいので市町村だけでなく県からの情報発信も必要と考える。	<p>御意見を踏まえ、市町村だけではなく、県及び関係団体と連携した取組と受け止められるよう、記載内容を修正しました。</p> <p>また、地域計画と連携する各補助事業や優良事例等については、引き続き市町村を通じて情報発信していきます。</p>	A(全部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
15	その他	その他	その他	本素案では、現在進行中のいわゆる「米不足」「米の価格高騰」「国の食料危機対応策」に対応するようになっていない。素案11ページと16ページを見ると、状況の変化に対応していない記述となっている。	御意見を踏まえ、第2章第2節「社会経済情勢の変化」において、令和6年産米の価格に関する記載を追加しました。	B（一部反映）
16	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	19ページ「2 具体的な取組（1）水稲」において、現在問題となっている「米不足」「米の価格高騰」に対応した形でゼロベースで見直すべきと考える。	御意見を踏まえ、第2章第2節「社会経済情勢の変化」において、令和7年産米の価格に関する記載を追加しました。	B（一部反映）
17	その他	その他	その他	本素案全体を通じて、「食料の生産倍増」を打ち出す形で、記述をゼロベースで見直すべきと考える。	本ビジョンは、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げる政策を一層推進するとともに、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示し、本県農業を強化するため策定するものです。 計画期間は、県民計画の終期と合わせ、令和7年度から令和10年度までとし、農業生産の目標については、最終案において、目標値をお示したところです。 目標を達成するための具体的な取組についても、同じ計画期間内に取り組む事項を盛り込んでいます。	F（その他）
18	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	—	具体的な取組	p23,28,30に記載のある「病原菌」は、「病原体」に見直すべきではないか。	御意見のとおり、「病原菌」を「病原体」に修正しました。	A（全部反映）
19	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	p28に記載のある「飼養衛生管理の実施状況」は、「飼養衛生管理基準の遵守状況」に見直すべきではないか。	御意見のとおり、「飼養衛生管理の実施状況」を「飼養衛生管理基準の遵守状況」に修正しました。	A（全部反映）
20	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	—	農業生産の目標に農業経営体の目標を入れたほうがよいと思う。	御意見も踏まえ、農業生産の目標として、「新規就農者数」を盛り込みました。	A（全部反映）
21	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	果樹の「もも」等新品目の導入の推進の前に、りんごの新品種の開発を入れたほうがよいと思う。	果樹については、「もも」等の新品目の導入推進のほか、引き続き、実需者ニーズに対応したりんごの品種開発に取り組むこととし、具体的な取組に記載しています。	C（趣旨同一）
22	その他	その他	その他	市町村により奨励作物が異なる中において、農業改良普及所がブロック単位での設置となっているが、かつては、各市町村に駐在がおり、きめ細かな対応であった。 生産性の向上、高効率化・高付加価値化、後継者の育成、新規就農者の確保などを推進していくためには、かつてのきめ細かな指導体制が必要であると考えており、現行体制の見直し(組織改革を含む。)を望む。	本ビジョンは、農業生産の増大などの方向性を示すものであるため、農業改良普及センターの組織体制までは明記していませんが、御意見を踏まえ、引き続き、農業改良普及センターにおいて、生産性向上、高効率化・付加価値化、後継者の育成、新規就農者の確保に向け、きめ細かな支援を行っていきます。	F（その他）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
23	その他	その他	その他	<p>農業知財とブランディング、マーケティングは密接に結びついており、これらの知識を網羅的に活用して、方針を決定していくことが大切だと思う。</p> <p>ブランディングの上で欠かせない知財の一つとしては、商標が挙げられるが、商標の登録にはカテゴリーの指定が必要で、リンゴを「果物」としてのみ登録するのではなく、菓子など「加工食品」、シードルなどの「アルコール飲料」なども考えられる。</p> <p>つまり、リンゴ(県品種のはるかなど)のブランディングができた後、ようやく、必要な知財の出願、マーケティング戦略の構築へと発展する。さらに言えば、はるかを岩手県以外で栽培して許諾料を得たり、ゼスプリのような周年供給を目的として南半球の国と連携したり出荷も考えられる。</p> <p>一方、農業知財はマストではなく、ブランディングを厚くすることで、広がりを見いだせることもある。例えば、「ふじ」のように品種登録の出願要件を満たさなくても、正統性や栽培適地、栽培技術を物語としてアピールすることで差別化を図ることができる。</p> <p>県は、生産者や販売者だけでなく、育種・技術者も巻き込んで、ブランディングに力を入れることで、もう一步発展した施策を講じられるのではと考える。</p>	<p>知的財産については、地域の農畜産物のブランド化を進めるに当たり重要な視点であると認識しています。御意見については、今後の取組を進める際の参考とさせていただきます。</p>	D (参考)
24	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	<p>米価安定の面から需要に応じた生産目安の設定を行い、農業経営の安定化や将来的な需給バランスを見据えた主食用米の作付けとなるような取組を進めていきたい。</p>	<p>国が公表する米の需給動向に関する情報を活用し、関係機関・団体と連携して、実需者ニーズに対応した作付け推進や栽培管理の徹底等による安定収量の確保に取り組んでいきます。</p>	D (参考)
25	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	<p>農地中間管理機構が農地を借り受け、受け手(借受者)が見つからない農地については、契約を解除することとなっているが、中山間地域等の条件不利地や畑、特に果樹園については受け手(借受者)の確保が難しく農地の流動化が進んでいない状況にあることから、借受希望者を確保するための県独自の支援策を創設していただきたい。</p>	<p>御意見のとおり、借受希望者に対する継承等が必要と考えており、県では、第三者継承希望者等に対し、個別の経営課題等に応じるため、「岩手県農業経営・就農支援センター」から税理士や中小企業診断士などの専門家を派遣するとともに、現地支援チームによるきめ細かなサポートを実施することにより、円滑な経営継承等の取組を推進しています。</p>	C (趣旨同一)
26	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	<p>労働力が特に不足している中山間において、「施設野菜など高収益作物の生産性の向上」や「畜産経営体の規模拡大と酪農・肉用牛の生産性向上」などは現状を踏まえると困難と考える。その中で、自給飼料の生産・利用拡大を図るため、中山間地域に多く存在する低未利用農地の解消につながる粗飼料生産など新たな営農形態への転換に向けた取組等の方策を示していただきたい。</p>	<p>新たな営農形態への転換に関しては、御意見を踏まえ、第7章第2節「中山間地域」における具体的な取組について、「高齢化や人口減少が著しい中山間地域において、一般社団法人等が地域の農地の受け皿となり、一元的に管理して生産活動を行う取組や、サービス事業体を活用した経営の事例など、農業生産や農地の維持に向けた新たな中山間地域モデルの創出を推進します。」とし、記載内容を充実させました。</p>	B (一部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
27	現状と課題	本県農業の生産力	—	「現状と課題」において、データや事実の記載にとどまっており、本県独自の課題分析がされていない。そのため、表題(現状)と内容(課題)が一致していないように感じられる。 例えば、農業産出額については、令和4年度までは順調に推移していたが、令和5年度は減少に転じている。その原因について、分析はできないのか。 その結果として、第4章第3節「農畜産物のブランド化」における重点品目(米、りんご、牛肉)や、ターゲット市場(アジア、北米等)をなぜ選定したのかが明確になると思う。	御意見を踏まえ、第2章「現状と課題」において、それぞれの現状に対する課題を追記しました。 なお、令和5年の農業産出額については、過去20年間で最高額となる2,975億円となっており、御指摘とは事実が異なります。	A(全部反映)
28	現状と課題	社会経済情勢の変化	—	「社会経済情勢の変化」において、昨今の米価高騰に関する記述が、「主食用米の価格動向」のみであり、その背景や影響についての記載がない。 米は、本県の農業産出額において、重要な地位を占めているため、米価高騰の要因(供給量の変化、流通・消費動向など)や、本県農業への影響についても明記すべきではないか。	御指摘を踏まえ、第2章第2節「社会経済情勢の変化」において、米価高騰の要因を追記しました。	B(一部反映)
29	その他	その他	その他	「農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用の促進に関する法律」に基づき、スマート農業の導入促進が掲げられていることは理解できるが、これまでのスマート農業の取組を踏まえた上で、生産者がスマート農業を導入する際における課題が整理されていない。 初期投資の負担、技術習得の難しさなど、生産者が直面する課題を明確にした上で、導入を進めるべきではないか。	本ビジョンは、農業生産の増大などの方向性を示すものであるため、スマート農業導入の課題までは明記していませんが、御意見と同様の課題認識であり、今後の農業DX推進の取組の参考とさせていただきます。	D(参考)
30	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	指標	スマート農業に関する指標については、ブランド化を推進する畜産分野においても、米や野菜、果実と同様に設定すべきではないか。	他の指標(「経産牛1頭当たりの年間生乳生産量」「肉用牛繁殖農家1戸当たりの飼養頭数」)により、スマート農業技術の活用を含めた畜産分野の生産性向上の状況を把握できることから、新たな指標は設定しませんが、継続してスマート農業技術の普及拡大に取り組んでいきます。	C(趣旨同一)
31	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	指標	「いわてグリーン農業アカデミー」は、みどり認定の取得を目的とするものと考えられる。 しかし、現在の指標は、「修了生数」となっており、これでは認定取得者数が把握できず、目的の達成度を判断しにくい。 そのため、指標を「みどり認定の取得者数」に変更、もしくは追加すべきではないか。	御意見も踏まえ、第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくりの推進」に係る指標を「認定農林漁業者数」に変更しました。	A(全部反映)
32	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	老朽化が進んでいる農業共同利用施設の再編・整備への支援に取り組むとのことだが、水稻種子センターの再整備も早急に必要となっており、現状を把握の上、支援と協力をお願いしたい。	御意見を踏まえ、第4章第3節「生産基盤の強化」において、安定的な種苗の供給に関する具体的な取組を盛り込みました。	A(全部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
33	はじめに	—	—	県民計画との関係についての記述はあるが、県の農業分野の個別計画との関係についての記述も必要と考える。	御意見を踏まえ、第1章「はじめに」において、「酪農・肉用牛生産近代化計画」や「野菜生産振興計画」など、品目ごとに策定している各種個別計画との関係について、追記しました。	A（全部反映）
34	現状と課題	本県農業の生産力	—	「販売金額規模別経営体の割合」が、正しくグラフに表示されていない。	御指摘を踏まえ、当該グラフの表示を修正しました。	A（全部反映）
35	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	耕種は作目ごとの記述があるが、6割以上の産出額を占める畜産も同様に、畜種ごとの記述が必要と考える。	御意見のとおり、畜種ごとに記述します。	A（全部反映）
36	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	花きについては、リンドウに特化しているが、ほかの品目は推進しないのか。	日本一の生産量を誇るりんどうに次ぐ、花き品目として、施設花き等の生産拡大に取り組むこととしており、具体的な取組を盛り込んでいます。	C（趣旨同一）
37	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	p22の「畜産経営体の規模拡大」に関し、今後推進していくべき施設機械について、具体的に記載したほうが方向性が明確になり、県民に分かりやすくなると思う。（搾乳ロボット、キャリロボ、自動給餌機、自走式ハーベスタ、コンビラップ等）	導入すべき施設・機械は、畜種や経営形態で異なることから、具体的な施設・機械を記載しないものです。	D（参考）
38	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	p22の「県産飼料の生産・利用拡大」に関し、既存の広大な公共牧場の飼料基盤（草資源）を有効活用し、基盤の再整備も含めて取り組む必要があると考える。	県では、各地域において公共牧場の飼料基盤を有効活用する取組を行っています。 また、畜産公共事業による草地整備も推進しており、引き続き、公共牧場の基盤整備を進めていきます。	C（趣旨同一）
39	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	p22の「県産飼料の生産・利用拡大」に関し、耕種と畜産の連携強化において、「子実トウモロコシ」の記載が必要と考える。	飼料用米、稲WCSは、県内で数千ヘクタール単位で取り組まれているため、代表的な作物として記載しています。なお、「飼料用米、稲WCS等」には、子実用とうもろこしや青刈りとうもろこし、ソルガムなどを含みます。	C（趣旨同一）
40	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	p22の「生産性の向上」に関し、地域のサポートチームが活動の中核となっているが、柱となる県の取組方針が見えない。県の行政・試験研究機関が、革新技术導入（技術開発や実証）に係る取組の方向性を示し、地域サポートチームと連携して普及していくというビジョンが必要と考える。	地域のサポートチームは、県の「酪農・肉用牛生産近代化計画」に基づき、地域の実状に合わせて新技術導入も含めて活動しています。	D（参考）
41	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	p23の「産業動物獣医師等の安定的な確保」に関し、遠隔診療の導入について、記載してはどうか。	獣医療の安定的な提供に向けては、引き続き、広域振興局が主体となり地域の市町村や農業協同組合等と検討を重ねながら、各地域の実情に応じた獣医療が継続して提供されるよう取り組んでいます。 また、昨年度から、今後の獣医療提供体制のあり方について、県獣医師会や関係団体等と意見交換を始め、広域的な人材の活用や遠隔診療を活用した診療の効率化などを検討しており、今後も、大学や関係機関・団体等と連携しながら、獣医師確保に積極的に取り組んでいきます。	B（一部反映）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
42	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	畜産の具体的な取組が、水田地帯、中山間地域、沿岸地域でほぼ同じ記載になっているので、各地域の具体的な取組を記載願いたい。	畜産については、地域別の取組に大きな差がない中、水田地帯での耕畜連携、中山間地域や沿岸地域での中小家畜の推進等の具体的な取組を記載しています。	F(その他)
43	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	水田地帯における耕畜連携に係るコントラの広域流通の取組のイメージはどのようなものか。	水田地帯において、耕種農家や飼料生産組織が作付けした飼料作物をコントラクターが収穫・調製を行い、畜産地帯や飼料基盤が不足する大規模畜産経営体に供給する取組を推進するものです。(第7章の優良事例を参照願います。)	F(その他)
44	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	いさわ南部の大区画化航空写真は、もっと広大なものと入れ替えるべき。	より分かりやすい事例となるよう写真や表現を見直しました。	B(一部反映)
45	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域における新たな経営モデルの創出について、一社法人による「まるっと方式」のような特定の組織による取組を県が推進することには違和感がある。	一般社団法人による農地の管理は、農地を維持していく手法の一例として示したものであり、サービス事業体の活用や、農村RMOの形成など、各地域の実情に応じた農業生産や農地の維持に向けた取組を促進していきます。	D(参考)
46	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	沿岸地域における自給飼料の生産拡大で、沿岸でのコントラの広域流通するような組織が存在するか疑問。	沿岸地帯においても、コントラクターや公共牧場が畜産経営体へ粗飼料を供給している事例があります。	F(その他)
47	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	減少が進行する農地の維持という視点が欠けていると考える。	農地の維持にあたっては、生産基盤の強化だけでなく担い手の育成・確保、農地の集積・集約化、地域の共同活動など様々な取組が重要です。このため、「第3章 本県農業の展望と農業生産の目標」の「第1節 本県農業の展望 3 耕地面積の展望」において農地の維持の必要性を記載しています。	A(全部反映)
48	産地づくりを支える人材の確保・育成	-	-	人材の確保・育成は、農業推進のための根幹となる施策と考えることから、最終章ではなく、第4章に据えるべきである。	食料自給率が100パーセントを超える本県は、食料・農業・農村基本法の改正を契機に、気候変動やGXの進展など、本県農業を取り巻く環境が変化する中、強みを一層発揮し、食料供給基地としての役割をしっかりと果たしていくことが重要と考え、本ビジョンを策定することとしました。 ビジョンにおいては、生産を強化するという観点から、施策推進の柱を5つとし、人材の確保・育成については、「生産性・市場性の高い産地づくり」や「安全・安心な産地づくり」といった、産地づくりを支える施策として整理しています。	F(その他)
49	産地づくりを支える人材の確保・育成	-	-	中山間地域等の耕作条件不利地では、農業・農村を維持するため「多様な生産者」の参画が不可欠であり、「多様な生産者」を担い手に準ずる者として取り扱うなど、県として担い手の定義を整理する必要がある。	農業者の下支えとなる農作業の受託等を行う農業支援サービス事業体。就業を希望する高校生やU・Iターン希望者、子育て世代、シニア世代、民間企業の副業希望者、外国人材など多様な農業人材の確保に向けた取組を進めていきます。	C(趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
50	その他	その他	その他	名称について、「生産を強化する」より、「生産力を強化する」の表現の方が正しいと思われるため、「いわて農業生産力強化ビジョン」のほうがよいのではないかと。	本ビジョンは、「食料・農業・農村基本計画」も踏まえつつ、本県農業を強化するため策定するものであり、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示すものです。 基本計画において、我が国の食料供給は、国内生産の増大を基本とするとされていることも踏まえ、本県が食料供給基地としての役割を果たし、本県農業の生産を強化していくためのビジョンであることを表現する名称としています。	F(その他)
51	現状と課題	本県農業の生産力	-	食料自給率は生産額ベースのみにしてはどうか。 食料供給基地の地位向上をめざすのであれば、生産額ベースの指標に限定した方がいいと思われる。 カロリーベースの自給率は、カロリーの高い米の生産量が多く人口が少ない場合に高くなる傾向があり、必ずしも農業の生産力を示す指標とは言えず、農業生産額が現状のままでも県の人口が減少すれば自動的にカロリーベースの自給率が上昇することになる。また、カロリーベース自給率106%では、食料供給基地ではなく、食料自給県という程度の水準ではないかと思われる。	本ビジョンは、「食料・農業・農村基本計画」も踏まえつつ、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げる政策を一層推進するため策定するものです。 基本計画においても、カロリーベースの食料自給率と生産額ベースの食料自給率の目標を掲げており、本ビジョンにおいても、農業生産の目標として、カロリーベースと生産額ベースの目標を掲げています。	F(その他)
52	現状と課題	社会経済情勢の変化	-	社会経済情勢の変化において、「食料安全保障の強化」を加える必要があるのではないかと。 ウクライナ戦争により穀物需給がひっ迫し穀物の国際価格が急騰している。 我が国の穀物自給率は小麦17%、大豆7%、米99%であり、米の自給率は政策的に高くなっているが、米の生産はアジアが中心で国際的な貿易量が少ないため。	第2章第2節「社会経済情勢の変化」の「4 農業政策をめぐる動向」において、食料安全保障を基本理念の柱とした、食料・農業・農村基本法の改正について、盛り込んでいます。	D(参考)
53	現状と課題	社会経済情勢の変化	-	A重油価格、主食用米価格、牛肉価格、肉用子牛価格も令和2年を100とする指数を併記してはどうか。 実価格と令和2年を100とした価格指数が混在していてわかりにくい。指数化することにより生産資材価格と農産物価格の格差が理解しやすくなると思われる。	第2章「現状と課題」においては、農林水産統計など、公表されている数値を掲載することとしています。	F(その他)
54	本県農業の展望と農業生産の目標	本県農業の展望	-	耕地面積が減少すると予測しているため、優良農地の確保を加えたほうがいいのではないかと。 食料供給基地の地位向上と生産性の高い農業の実現に向け、優良農地の確保と農地の集積・集約化を一層進めていくことが必要だと考える。	御意見を踏まえ、第4章第3節「生産基盤の強化」において、農地の確保と有効利用に係る具体的な取組を追加しました。	A(全部反映)
55	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	-	食料自給率の目標について、カロリーベースは削除してはどうか。 生産額ベースの自給率は、農業生産振興の目標にはなりうるが、カロリーベースの自給率は消費者の消費行動と人口の動向に影響を受けるため、農業生産の目標としては適していないと思われる。	本ビジョンは、「食料・農業・農村基本計画」も踏まえつつ、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げる政策を一層推進するため策定するものです。 基本計画においても、カロリーベースの食料自給率と生産額ベースの食料自給率の目標を掲げており、本ビジョンにおいても、農業生産の目標として、カロリーベースと生産額ベースの目標を掲げています。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
56	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	その他	その他	「品目・地域別推進方針」といった記載内容を要約した見出しにしてはどうか。 記載内容は施策の推進方針となっており、新たな施策の展開方向を記載しているわけではない。	本ビジョンでは、食料自給率と農業産出額を目標に掲げ、10年後の目指す姿を描きながら、農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり、環境負荷低減と安全・安心な産地づくり、産地づくりを支える人材の確保・育成、地域ごとの展開方向、試験研究の推進の5つの柱ごとに、施策の基本方向を示した上で、具体的な取組を盛り込んでいます。 また、気候変動への対応や、大規模園芸施設の企業誘致に向けた取組など、新たな施策を盛り込んでいます。	F(その他)
57	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	その他	その他	第1節の「品目ごとの展開方向」、第2節の「地域ごとの展開方向」は一体化してはどうか。 重複する記載内容が多く、品目別推進方針は全県で同じ内容、内陸と沿岸で異なるのは気象条件、水田地域と中山間地域で異なるのは作物構成のみとなっている。	本ビジョンでは、品目ごとの展開方向に加え、初めて、水田地帯、中山間地域、沿岸地域における地域ごとの展開方向を示しました。 気象条件や、重点的に取り組む品目は、地域ごとに異なることから、本ビジョンにおいては、地域ごとの強みを生かした生産の姿を描くことを重視しているものです。	F(その他)
58	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	水稲について、「低コスト稲作栽培マニュアル」「稲作指導指針」とだけ記載しても具体的内容がわからないのでポイントを記載してはどうか。	御意見も踏まえ、「低コスト稲作栽培マニュアル」に基づく、具体的な取組内容を追記しました。	B(一部反映)
59	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	水稲について、コストを低減させるための経営規模拡大も加える必要があるのではないかと。	御意見も踏まえ、「低コスト稲作栽培マニュアル」に基づく、経営規模の拡大などの具体的な取組内容を追記しました。	B(一部反映)
60	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	本県の麦・大豆は単収が低く、岩手県産「ユキチカラ」は全国最低の販売価格となっているため、単収向上と販売価格の向上策も講じる必要があるのではないかと。	実需者ニーズに応じた高品質な小麦・大豆の生産の取組を進め、収量や販売価格の向上を図っていきます。	C(趣旨同一)
61	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	麦・大豆の単収向上のために輪作作物として子実トウモロコシを導入する必要があるのではないかと。 令和10年の水田政策の見直しでは、麦・大豆が水田か畑で生産されたかを問わず経営安定対策が講じられるものと見込まれる。その場合、ブロックローテーションを維持する必要性がなくなり、麦・大豆の転作作物は栽培ほ場が固定化されるとのではないかと見込まれる。そうなると、麦・大豆が連作され単収が低下することが懸念される。そのため、麦・大豆に子実トウモロコシを加えた畑作物の輪作体系を確立させ、麦・大豆の単収の向上を図る必要が出てくると考える。	岩手県農業再生協議会の水田農業の推進方針に基づき、水稲と転換作物のブロックローテーション(田畑輪作)を基本とし、畑地としての利用が望ましい場合においては畑地化を推進するなど生産性向上に向けた取組を推進していきます。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
62	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	<p>「県産飼料の生産・利用拡大」において、子実トウモロコシを追加していただきたい。</p> <p>子実トウモロコシと飼料用とうもろこしは、栽培農家、利用形態が異なることから、子実トウモロコシも明記する必要があると考える。</p> <p>従来の飼料用とうもろこしは、主に酪農家が栽培しサイレージにして自家消費している。一方で、子実トウモロコシは、稲作農家が転作作物として栽培し子実を畜産農家に販売するものである。</p> <p>今後、水田地域では高齢農家のリタイヤにより多量の水田が供給されてくる。現在、地域の農地の受け皿となっている水田作大規模法人もこれ以上水稲として引き受けることが困難になってきている現状である。このため、水田作大規模経営体において、省力的な転作作物として子実トウモロコシを導入する必要があると出てくる。</p> <p>稲作経営体が転作作物として既存の麦、大豆に子実トウモロコシを加えることにより畑作物の輪作体系が確立されることで、麦・大豆の単収の向上が期待できると考える。</p>	飼料用米、稲WCSは、県内で数千ヘクタール単位で取り組まれているため、代表的な作物として記載していません。なお、「飼料用米、稲WCS等」には、子実用とうもろこしや青刈りとうもろこし、ソルガムなどを含みます。	C (趣旨同一)
63	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	その他	「地帯」「地域」の表現を統一したほうがよいのではないかと。	第4章第2節「地域ごとの展開方向」において、それぞれの地帯、地域の考え方を追記しました。	A (全部反映)
64	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	<p>水田地帯の具体的な取組において、「海外依存度が高い麦・大豆」を「国内自給率が低い麦・大豆」に修正してはどうか。</p> <p>海外依存度が高いとした表現より、国内自給率のほうが一般的。第2章では食料自給率としている。</p>	御意見も踏まえ、国の「食料・農業・農村基本計画」の表現と合わせ、「輸入依存度の高い麦・大豆」に修正しました。	B (一部反映)
65	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	水田地帯の具体的な取組の「耕畜連携による飼料の生産・利用拡大」において、子実トウモロコシを追記してはどうか。	飼料用米、稲WCSは、県内で数千ヘクタール単位で取り組まれているため、代表的な作物として記載していません。なお、「飼料用米、稲WCS等」には、子実用とうもろこしや青刈りとうもろこし、ソルガムなどを含みます。	C (趣旨同一)
66	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	水田地帯の具体的な取組において、「農地の受け皿になる経営体の育成」を追加したほうがよいのではないかと。	地域農業の核となる経営体の育成は必要であることから、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、農地の集積・集約化に係る取組を追加しました。	B (一部反映)
67	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域の具体的な取組において、中山間地域の主作物となっている果樹作(りんご、ぶどう)の振興策を加える必要があるのではないかと。	果樹(りんご、ぶどう)については、中山間地域において収益を確保できる重要な品目であることから、中山間地域の具体的な取組として、新たに記載することとします。	A (全部反映)
68	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	<p>中山間地域の具体的な取組において、「新たな経営モデルの創出に向けた取組の促進」という小見出しとしているが、再考されたほうがよいのではないかと。</p> <p>例示されている事例は経営モデルではないのではないかと。</p>	御意見を踏まえ、「農業生産や農地の維持に向けた新たな取組の推進」に修正しました。	A (全部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
69	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	沿岸地域の具体的な取組において、「企業誘致による施設野菜の生産拡大と生産性の向上」という小見出しとしているが、「施設野菜の生産拡大と生産性の向上」としたほうがよいのではないかと。 この取組は、企業誘致にのみ限定されるわけではない。	沿岸地域における施設野菜の生産拡大については、沿岸地域の夏季冷涼・冬季温暖な気象特性を生かした農業法人等の誘致を中心に進めていくことから、小見出しについては、素案のとおりとします。	D(参考)
70	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	その他	記載内容は農産物の販売促進であり、一般的なブランド化とは異なるのではないかと。 ブランド化とは、自社の商品やサービスに価値を持たせて、他社と差別化を図る取組である。 タイトルを生かすのであれば、本県の農畜産物が他県の農畜産物に對しどう差別化していくのかを記載する必要があるのではないかと。 ちなみにトップセールスの記載が多くなっているが、これは一過性のイベントであり、販売促進には効果があるかもしれないが、ブランド化には結びつかないのではないかとと思われる。	農産物販売促進やトップセールスを通して、消費者への認知度をあげ、ブランド化へつなげていきたいと考えており、御意見も参考にさせていただきながら他産地との差別化にも取り組んでいきます。	D(参考)
71	産地づくりを支える人材の確保・育成	その他	その他	地域農業の核となる経営体の育成において、掲載順序を、「リーディング経営体の育成」「農業経営体の経営力向上」「集落営農組織の経営基盤の強化」としたほうがよいのではないかと。	御意見を踏まえ、掲載順序を変更しました。	A(全部反映)
72	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	「集落営農組織の経営基盤の強化」において、ここでいう集落営農は、法人なのか、非法人なのか。 設立後約20年たって法人化した集落営農は30%、残り70%の非法人の集落営農は構成員の高齢化により存続が危ぶまれている。したがって、非法人の集落営農が持続できるような施策が必要であり、小規模集落営農の連携強化・連携法人の設立推進等を推進する必要があると考える。	非法人も含まれています。また、御意見を踏まえ、小規模集落営農の連携強化等への支援を追加しました。	A(全部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
73	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	「地域計画の実現に向けた取組の促進」と「農地の集積・集約の促進」は一連の内容なので、「地域計画の実現に向けた支援」としてはどうか。	御意見を踏まえ、「地域計画の実現に向けた取組の促進」と「農地の集積・集約の促進」は一連の内容のため、「地域計画の実現に向けた支援」に修正しました。	A (全部反映)
74	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	「市町村が策定した地域計画の実現に向け、国、農地中間管理機構、岩手県農業会議、全農いわて等と連携して支援します。」と記載したほうがよいのではないか。 地域計画の策定は自治事務として位置付けられ、法定受託事務ではないので、市町村が自主的・自立的に実施できるようにすべきものと考えられる。 また、地方自治法による国と地方の役割分担における県の役割は、①広域にわたるもの、②市町村に関する連絡調整に関するもの、③その規模または性質において一般の市町村が処理することが適当でない事務を処理することとされている。	御意見を踏まえ、「市町村が策定した地域計画の実現に向け、国、農地中間管理機構、岩手県農業会議、岩手県農業協同組合中央会等と連携して支援します。」という記載内容に修正しました。	A (全部反映)
75	その他	その他	その他	本県あるいは管内の農業の課題からみると、第5章の「環境負荷低減」よりも、第6章の「人材の確保」のほうが優先的に取り組むべき事項だと感じる。	食料自給率が100パーセントを超える本県は、食料・農業・農村基本法の改正を契機に、気候変動やGXの進展など、本県農業を取り巻く環境が変化する中、強みを一層発揮し、食料供給基地としての役割をしっかりと果たしていくことが重要と考え、本ビジョンを策定することとしました。 ビジョンにおいては、生産を強化するという観点から、施策推進の柱を5つとし、人材の確保・育成については、「生産性・市場性の高い産地づくり」や「安全・安心な産地づくり」といった、産地づくりを支える施策として整理しています。	F (その他)
76	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	高温耐性品種の開発については、多収・高食味を実現できる品種の育種を求めます。	収量や食味も評価しながら、ニーズに応じた高温耐性品種の開発に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
77	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	ほ場整備地区における土地利用型野菜の作付け拡大については、労働力確保が難しくなっているため、機械化できる体系を確立するとともに、ハード面の支援の拡充を求めます。	土地利用型野菜の生産拡大に向けて、国事業等を活用し、生産性向上につながるスマート農業技術や機械化体系に必要な農業機械などの導入を支援していきます。	D (参考)
78	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	畜産物の販売において、輸出だけでなく国内、県内消費者へのPRも強化してほしい。	国外だけではなく、国内及び県内でのPRにも、引き続き取り組んで取り組んでいきます。御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	D (参考)
79	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	農業共同利用施設の再編・整備について国庫の再編新事業へ岩手県の上乗せ支援を求めます。	「再編集約・合理化の更なる加速化」については、農業協同組合から強い要望があることから、国に対し、地方の財政事情も踏まえ、地方財政措置を充実させるよう、引き続き要望していきます。	D (参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
80	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	p32の県産米について、「販路の拡大」ではなく、「安定供給」としてほしい。「安定供給」が既存ユーザー様の安心感を得ることになり、今後の継続取引や産地評価の向上につながると考える。	「いわて県民計画(2019～2028)」では、農畜産物の販路の開拓・拡大に取り組むこととしており、安定供給の上に成り立っていると認識しています。 近年、社会情勢の変化が著しいことから、既存販路への安定供給と併せて、販路の拡大を図るよう取組を進めたいと考えています。	C(趣旨同一)
81	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	p32の「2具体的な取組の(1)」において、新品種「白銀のひかり」の記述部分は、品種特性の把握と振興方針の策定による良品生産拡大としたほうがよい。しっかりした品質のものができる体制をまず整え、安定供給ができることが先決と考える。	「白銀のひかり」は、高品質・良食味米の安定生産が重要であることから、栽培研究会を中心に、栽培マニュアルに基づき、生産者の栽培技術の向上を支援することとし、具体的な取組を記載しています。	C(趣旨同一)
82	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	p33の「米の輸出促進」について、「新たに輸出が開始されたフィリピン等の販路開拓に取り組みます。」は削除を希望する。フィリピンは3年前より輸出しており、あえて強調する必要はなく、前項でアジアを強化としているので不要である。	御意見を踏まえ、具体的な取組の記載内容を修正しました。	A(全部反映)
83	その他	その他	その他	地域農業が、担い手不足などの諸問題を抱える中で、それぞれの地域農業の在り方や農地利用の目標などを掲げた「地域計画」が各地域で策定された。 今後は、具体的な実践活動によって、着実に成果を確保する必要があるが、このビジョンは、地域農業の再生と振興を図るための広範な内容が盛り込まれているため、関係機関・団体が一体となった支援が強く求められる。 こうした考えのもとに、新たに、岩手県農業再生協議会を推進母体とする、「地域計画実践いわて運動(仮称)」を全県的に推進すべき。	県・関係団体で構成する岩手県地域計画推進協議会が主催する県地域計画推進協議会や地方推進会議等において、地域計画の実現に向けた取組や優良事例等を共有し、関係機関・団体が一体となって取り組んでいきます。	D(参考)
84	その他	その他	その他	ビジョン全体の記載内容について、以下のように分かりやすくすべきではないか。 (見直し前) ・ 沖縄県と連携し、年2回の栽培試験により、気候変動に対応した高温登熟耐性を持つ良食味品種の開発を加速します。 (見直し後) ・ 農業研究センターにおいて、高温登熟環境を再現できる栽培評価施設を整備し、高温登熟耐性を持つ米の品種開発に取り組めます。 ・ 水稻の二期作ができる沖縄県の協力を得て、栽培試験を行い、高温登熟耐性を持つ有望品種の開発期間の短縮を図ります。	御意見を踏まえ、ビジョン全体の記載内容を精査の上、必要に応じ、見直しを行いました。	A(全部反映)
85	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	「白銀のひかり」について、周知はもちろんであるが、販売面、技術面をどのようにしていくかを整理していかなければならないと思う。	県内外の量販店や中食・外食への販路拡大を図りながら、栽培マニュアルを活用した高品質・良食味米の生産に取り組んでいきます。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
86	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	環境負荷低減について、有機JAS認証やグローバルGAPに加え、J-クレジットについても勉強会などを開催してほしいと思う。	J-クレジット制度の活用は、温室効果ガスの削減に有効であることから、制度の周知や取組事例の紹介等について、具体的な取組に追記しました。	A (全部反映)
87	その他	その他	その他	ビジョンの策定に当たっては、実際に生産に携わる農業者の声を聞きながら、進めてほしい。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。	C (趣旨同一)
88	本県農業の展望と農業生産の目標	本県農業の展望	—	基幹的農業従事者が減少する一方で、農業産出額は9位で、過去20年で最高額ということがあり、今後、こうしたビジョンを持って進めていくことが重要だと考える。	本ビジョンは、市町村・農業団体・生産者と一体となって、本県の農業を強化していくため策定するものであり、農業生産の目標を定めるとともに、農業生産の増大や、人材の確保・育成などの方向性を示すものです。御意見も踏まえ、本県が我が国の食料供給基地としての役割をしっかりと果たしていくことができるよう、本ビジョンに基づく取組を着実に進めていきます。	C (趣旨同一)
89	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	生産者が減少する中で、スマート農業技術などによって、生産性の向上を図っていくことは、ますます重要になっていくと考える。	御意見と同様の課題認識であり、「具体的な取組」にスマート農業技術を活用した生産性向上の取組を位置付けたところです。	C (趣旨同一)
90	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	—	食料自給率などの農業生産の目標については、国の動向なども踏まえながら設定していくことが重要だと思う。	本ビジョンは、「食料・農業・農村基本計画」も踏まえつつ、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げる政策をするため策定するものです。食料自給率などの農業生産の目標については、基本計画など国の動向も踏まえ、設定しています。	C (趣旨同一)
91	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	令和6年8月以降、米の需要が非常に高まっており、様々なところから米がほしいという話をいただいている状況。事業者以外の一般の方々からも直接生産者から購入したいという話もある。こうした中で、米の輸出に力を入れていくとのことだが、輸出できる量をどのように確保していくかが課題だと考えている。輸出する前に、県民の食料を確保することの方が先なのではないかと感じる。	米の輸出を取り巻く状況は、近年、厳しい状況にありますが、これまで築いてきた販路を失うことがないよう、また、主食用米の流通にも配慮しながら、農業団体や関係機関等と連携して取り組んでいきます。	D (参考)
92	その他	その他	その他	ビジョンの概要版を見ると、具体的な取組が見えてこない。例えば、生産性向上については、どこの地域で、どのような品目をどのように伸ばしていくのかという部分がわかりにくい。売り方にしても、どこに、どのように売っていくのかが見えない。法人化についても、どのように進めていくのかといった具体策が見えない。具体的な取組を入れて、戦略をつくっていく必要があると思う。	概要版においては、具体的な取組を要約し記載していますが、ビジョン本体において、詳しく記載しています。	F (その他)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
93	その他	その他	その他	意見交換を実施したとのことだが、対象の組織・団体を見ると、女性や若者の意見を聞く機会が少ないのではないかと疑問を感じる。 農政審議会であれば、女性の割合の規定があり、ある程度意見を聞くことができると思うが、これまで実施した組織を見ると、女性や若者の意見を反映しにくいのではないかと思う。 農業では、現場で活躍している女性が多く、その現場の声を聞くため、女性の声をもっとひろってほしいと思う。	御意見も踏まえ、岩手県農業法人協会岩手アグリ新世会、岩手県農協青年組織協議会、岩手大学や岩手県立大学等の学生との意見交換を実施しました。意見交換の実施に当たっては、出席者のうち女性が占める割合を考慮しました。 また、意見交換でいただいた御意見については、内容を検討し、ビジョンに反映しました。	B（一部反映）
94	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	学校給食への食材供給は、是非進めてほしいが、生産者にとっては、価格や規格の部分で難しい部分がある。生産者が売りたいような価格規制の仕組みをつくってほしいと思う。	学校給食の1食当たりの価格は、市町村により異なること、また、農林水産物の価格は、全国的な需給に応じて決定されることから、価格等に関与することが難しいものと考えます。生産者が出荷したくなるような、学校給食への県産食材の利用促進等に取り組んでいくための参考とさせていただきます。	D（参考）
95	本県農業の展望と農業生産の目標	本県農業の展望	—	目指す姿3についてであるが、食料・農業・農村基本法において、「多様な担い手」が重要であるとされ、そのこと自体は否定しない。 一方、個人農家であっても、意欲があり、今後面積を拡大して、将来は法人化したいという生産者がいる中で、こうした生産者向けの政策をつくってほしい。法人化には、施設や農業機械の導入が必要であり、こうした部分への支援が必要だと感じる。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」において、家族農業経営の経営環境の整備について、記載内容を修正しました。	A（全部反映）
96	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	「生産基盤の強化」については、ほ場整備を是非進めてほしい。	御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 本ビジョンに基づき、ほ場整備を推進していきます。	A（全部反映）
97	その他	その他	その他	ビジョンの推進に当たっては、農業予算をしっかりと確保して進めてほしい。	本ビジョンは、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示し、本県農業を強化するため策定するものです。 ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、御意見も踏まえ、取組の内容や規模について、毎年度の予算編成において検討していきます。	D（参考）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
98	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	令和9年から水田政策を見直すという報道を見た。これまで、減反政策の「減反」という言葉に、後ろめたさを感じながら農業をやってきたのではないかと感じる。そういう大人を見てきた子どもたちが、農業をやりたくないと感じる要因であったのではないかとも思う。 今後、水田政策を見直すことで、これからは、意欲のある子どもたちが、自分の農業をやりたいという環境に変わってくるかもしれないと考えている。こうした部分を考えながら、ビジョンをつくってほしいと思う。	国では、水田政策を令和9年度から根本的に見直すこととしており、県としても地域の実情に配慮し、意欲ある農業者が将来にわたって安心して営農に取り組むことができる制度となるよう要望しており、引き続き、国の動向を注視していきます。	D(参考)
99	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	学校給食への食材供給について、是非重点的に取り組んでほしい。	「具体的な取組」において、産地直売所等による学校給食等給食施設への食材供給に取り組んで行くこととしています。	C(趣旨同一)
100	その他	その他	その他	岩手県中小企業家同友会には、農業経営者のほか、地域産業の方々が、色々な地域から参加している。様々な業種が集まっているが、農業に関わりたいという気持ちを持った経営者もたくさんいる。 このビジョンについても、色々な場面で共有できたらと強く思うし、若手の経営者に説明会を行うなど、岩手県らしい中小企業団体ならではのつながる機会、交流というものができたらいいと考えている。	御意見も踏まえ、岩手県中小企業家同友会の会員の皆様との意見交換を実施しました。 また、意見交換でいただいた御意見については、内容を検討し、ビジョンに反映しました。	A(全部反映)
101	その他	その他	その他	農業・食料生産現場は大変厳しい状況で、農業従事者がここ数年で大きく減少しており、この先、耕作放棄地が一気に増加する時代が来るだろうと思う。 そういったことを想定しながら、食料生産の在り方について、食料供給県と言われている我が県として、耕作放棄地を出さないような施策を考えてほしい。	地域計画に位置づけられた担い手等について、法人化や経営規模の拡大、生産活動の効率化、農地の集積・集約化など、経営基盤の強化の取組等を通じて対策を講じていきます。	D(参考)
102	その他	その他	その他	農作物に対する野生鳥獣被害が、10年前に予測した以上に大きくでてきている。大変厳しい状況にあり、そういったこともしっかりと想定しながら、農業生産基盤である農地を次の時代につなげていく施策を考えてほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A(全部反映)
103	その他	その他	その他	日本全体を見た時に、食料自給率が40%も無いことが先進国と言えるのか疑問である。食料を5割以上は自給できるような体制を取り、次の時代につなげていくといった施策を考えてほしい。	本ビジョンは、食料自給率が100パーセントを超える本県の強みをより一層発揮し、市町村・農業団体・生産者と一体となって、本県の農業を強化していくため策定するものであり、農業生産の目標を定めるとともに、農業生産の増大や、人材の確保・育成などの方向性を示すものです。 ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、取組の内容や規模については、御意見も踏まえ、毎年度の予算編成において検討していきます。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
104	その他	その他	その他	最終案の策定に当たっては、農政審議会、市町村、農業協同組合などからいただいた意見をしっかりと反映することと、実効性のあるものとしてほしい。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 意見交換でいただいた御意見については、内容を検討し、ビジョンに反映しました。	B（一部反映）
105	その他	その他	その他	生産額や生産量は、右肩上がりのものだけでなく、現状維持すらできないような場面が出てくると思う。中山間地域が多い岩手県は、そういった部分をしっかりと守っていかなければならないと考える。 プラスの数字だけでなく、現状維持の部分も含めて、目指すビジョンを示してほしい。	本ビジョンは、市町村・農業団体・生産者と一体となって、本県の農業を強化していくため策定するものであり、農業生産の増大や、人材の確保・育成などの方向性を示すものです。 農業生産の目標については、ビジョンに掲げる「目指す姿」を踏まえ、生産者や農業団体等の意見交換を重ね、共通理解を図りながら、設定したものです。	C（趣旨同一）
106	その他	その他	その他	急激な人口減少の中で、具体的にどのようにして営農の形を転換していくのかといった部分をイメージできるようなビジョンにしたほうがよいと思う。	本ビジョンでは、品目ごとの展開方向に加え、水田地帯、中山間地域、沿岸地域における地域ごとの展開方向を示しています。 農業従事者の高齢化と基幹的農業従事者の減少が同時に進む中、それぞれの地域が持つ強みを生かした生産の姿を描くことを重視し、ビジョンを策定しています。	C（趣旨同一）
107	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	—	令和10年度の目標値について、増加傾向とするのか、又は、現状維持や減少傾向の目標値とするのか。生産者にとっては、所得が上がらなければ、農業を続けることができないと思う。新規就農施策だけでなく、現在農業を行っている方々が生計を維持できるような施策が必要だと考える。	本ビジョンは、市町村・農業団体・生産者と一体となって、本県の農業を強化していくため策定するものであり、農業生産の増大や、人材の確保・育成などの方向性を示すものです。 農業生産の目標については、ビジョンに掲げる「目指す姿」を踏まえ、生産者や農業団体等の意見交換を重ね、共通理解を図りながら、設定したものです。 また、ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、取組の内容や規模については、御意見も踏まえ、毎年度の予算編成において検討していきます。	D（参考）
108	その他	その他	その他	農業者が減少する中で、生産を維持できるか不安に感じている。農業者の減少をカバーできるような政策を打ち出してほしい。	本ビジョンでは、品目ごとの展開方向に加え、水田地帯、中山間地域、沿岸地域における地域ごとの展開方向を示しています。 農業従事者の高齢化と基幹的農業従事者の減少が同時に進む中、それぞれの地域が持つ強みを生かした生産の姿を描くことを重視し、ビジョンを策定しています。 ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、御意見を参考に検討していきます。	D（参考）
109	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	「金色の風」の作付面積がなかなか増えないという現状の中で、今後、どのようにして巻き返しを図っていくのか。	「金色の風～雅～」や特別栽培米の更なる評価向上による価格への反映等を図るとともに、実需者等の評価を生産者にフィードバックしていくことにより、生産者の意欲向上につなげ、作付面積を維持・拡大を推進していきます。	D（参考）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
110	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	県有種雄牛について、菊美翔平は好調だが、今後、どのように取り組んでいくのか。	本ビジョンに記載のとおり、ゲノム解析技術等を活用し、脂肪交雑やロース芯面積等、産肉能力が高い種雄牛を早期に造成するほか、牛肉の美味しさに関わる「脂肪の質・形状」などの指標の活用により、他県種雄牛との差別化を図ります。 種雄牛の造成については、令和6年1月から5月にかけて、県、全農、農協等で組織する「いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会」において、生産者と意見交換を行い、その内容も踏まえた今後の種雄牛造成の方向性を共有し、進めているところです。	F(その他)
111	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	畜産農家は、資材価格の高騰に加え、子牛価格の低迷などにより、廃業している方もおり、手厚い支援が必要だと感じる。	県ではこれまで、補正予算により、飼料や肥料の購入費の上昇分に対する補助や、酪農経営や和牛繁殖経営への影響を緩和するための支援を実施してきました。 飼料価格等が高止まりし、酪農、肉用牛経営が厳しい経営環境にある中、本ビジョンに記載した取組は、生産性の向上や飼料基盤の活用等により、畜産経営体の体質強化を図るものです。	F(その他)
112	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	子実用とうもろこしについて、単独市町村で循環させることは難しいため、大きなまとまりの中で取り組んでいくと、県内流通ができるようになるのではないかと考えている。	子実用とうもろこしについては、家畜への給与を行う畜産経営体の個々のニーズに合わせた生産・供給が必要であることから、耕種農家と畜産経営体のマッチングに取り組んでいきます。	D(参考)
113	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	WCSの推進については、水田の維持の面からも重要だと考えている。	県としても、水田を活用した飼料作物の生産が、外部環境に左右されない畜産経営の確立とともに水田の維持の面からも必要と考え、本ビジョンにも盛り込んでいるところです。	C(趣旨同一)
114	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	耕畜連携が記載されているが、特に、酪農家は自分で飼料を賄うか、輸入に変えるという動きがあり、国産飼料を使わない傾向にあるが、どのように耕畜連携を進めていくのか。	県内において、稲作経営体から大規模酪農経営体へ稲WCSを供給する取組が行われており、そうした事例をモデルに、品質・価格・保管場所等の流通の条件を調査し、情報提供するとともに、耕種と畜産のマッチングを図り、連携を強化していきます。	F(その他)
115	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	人口が減少していく中で、農業法人や大規模経営を増やして維持していくという方向性と思われるが、それだけだと、沿岸地域や中山間地域では耕作放棄地が増えていくのではないかと考えられる。人を残す、地域に人が残るような施策を考えていかなければならず、そうした内容が盛り込まれると、地域としても進めやすいと思う。	本県の中山間地域では、不利な生産条件の中で、小規模・兼業農家など、多くの生産者が生産活動に携わっており、こうした多様な生産者が参画し、農業生産や地域活動の活性化を通じて、活力ある農業・農村を実現していくことが重要です。 本ビジョンにおいては、中山間地域が有する特性を生かした農畜産物の産地力向上に加え、小規模・家族経営を中心とする集落営農組織等の経営規模の拡大などに取り組むこととしています。	C(趣旨同一)
116	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域は、そもそも人がいなくなっている中で、農地の維持管理が大変になってきている。施設野菜の生産性向上について、どの地域で、どのように進めていくことを想定しているのか。	トマトやピーマンを栽培するパイプハウスにおいて、実証展示ほでの現地研修会等により、本県独自の低コスト環境制御技術の導入など、単収向上に向けた取組を中山間地域においても推進していきます。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
117	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域の具体的な取組として、施設野菜の生産性向上が掲げられているが、実体としては露地野菜が中心となっており、この部分への支援も検討してほしい。	地域の気象特性を生かした露地野菜の生産振興については、引き続き、JA生産部会を核とした産地の体質強化に取り組むとともに、国事業等を活用した機械・施設の導入を支援していきます。	D(参考)
118	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	ぶどうやリンゴについて、新品種や気候変動に対応した品種を推奨していくこととされているが、果樹の改植への支援を盛り込んでほしい。	消費者や実需者のニーズが高い優良品種への転換を推進するため、産地の計画的な新改植を支援することとし、具体的な取組に記載しています。	C(趣旨同一)
119	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	米の輸出は価格設定が問題であり、現実的に厳しいが、今後、どのように取り組んでいくのか。	米の輸出については、今後の動向を注視し、引き続き、品質の高さを評価いただきながら、関係機関・団体と連携して進めていきたいと考えています。	D(参考)
120	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	大規模な担い手や組織に農地を集約する中で、生産効率を高めるためには、基盤整備は必要だと思う。	御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 本ビジョンに基づき、基盤整備を推進していきます。	A(全部反映)
121	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	ほ場整備について、事業期間が長くなってきており、事業期間の短縮に努めてほしい。	御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 さらに、基盤整備の早期完了に向けて、必要な予算の確保に努めつつ、整備コストの削減を図ることとしており、具体的には別途「農業農村整備事業コスト削減計画(2025～2028)」を策定し鋭意取組を進めているところです。	A(全部反映)
122	その他	その他	その他	地域計画の策定の際、農家の話を聞くと、鳥獣被害が多く、農業に取り組みにくいという意見が多い。素案では、鳥獣被害防止対策が盛り込まれていないが、最終案に盛り込んでほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A(全部反映)
123	その他	その他	その他	ニホンザル、イノシシによる農作物被害が顕著であり、農作物を守るという観点から、鳥獣被害防止対策を盛り込んでほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A(全部反映)
124	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	有機農業やオーガニックの推進について、県と足並みをそろえていく必要があると考えているが、この部分について、どの程度まで書き込んでいくのか。	有機農業の推進の取組として、有機農産物等アドバイザーの派遣や、技術交流会の開催について記載しています。また、指標として、「有機農業の取組面積」を掲げました。	F(その他)
125	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	有機農業について、現在は、できる人が実践している状況にあり、大規模に水稻を作付けしている農業者なども取り組めるようになれば、拡大していくのではないかと。	第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくり」の具体的な取組において、有機農業の技術交流会の開催を位置付けており、大規模な経営体の参加を誘導していきます。	C(趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
126	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	新規就農希望者が、空いている牛舎などを把握できる仕組みや、第三者継承を円滑に行う仕組みを盛り込んでほしい。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A (全部反映)
127	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	岩手の農業の魅力発進、農業を体験する機会の充実といったような取組を盛り込んでほしい。小中学校の児童・生徒や、若い世代の就農意欲の喚起が重要であると感じる。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、若い世代の就農意欲の喚起を盛り込んでおり、関係機関・団体と連携して取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
128	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業機械が高額となっており、個人農家は更新ができない状況にある。これまでは、生産拡大ということで、法人の育成を行ってきたが、広大な農地を法人だけで維持するのは難しくなっている。多様な経営体への手厚い支援が必要であり、その上で、法人を伸ばして、全体として農地を守っていくような施策が重要となっているのではないか。	地域農業を先導し、雇用の受け皿となるリーディング経営体を育成するため、「岩手県農業経営・就農支援センター」から税理士や中小企業診断士などの専門家を派遣するとともに、現地支援チームによるきめ細かなサポートを実施することにより、法人化、経営規模の拡大や効率化、多角化の取組を推進していきます。	C (趣旨同一)
129	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	担い手不足が深刻であり、国の事業要件から外れるような、親元就農や、50歳を超えるような方でも新規就農をしてもらえるような対策や支援も考えていかなければならないと思う。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、関係機関・団体と連携した総合的な新規就農対策の推進や円滑な経営継承の推進を盛り込んでおり、関係機関・団体と連携して取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
130	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農家をサポートしていく体制をどのように構築していくのか、という視点が必要ではないか。	生産現場の人手不足や生産性向上等の課題に対応するため、農業者の下支えとなる農作業の受託や機械等のリース・レンタル、人材派遣など、労働力確保等をサポートする農業支援サービス事業体の育成や活用を推進します。	C (趣旨同一)
131	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	法人化を進めてはいるが、地域農業を支えているのは家族経営や小規模経営という実態がある。こうした農家への支援を検討してほしい。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」において、家族農業経営の経営環境の整備について、記載内容を修正しました。	A (全部反映)
132	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	担い手のみで、将来的に全ての農地を担っていくことは不可能だと感じている。今後、土地の利用を含め、担い手と、担い手ではないが地域の中核的な農家とを分けて支援していくことが必要と考えている。	これまで、地域での話し合いにより、地域農業マスタープランを作成・実行してきましたが、今後、高齢化や人口減少の本格化により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されます。 今後は、若年者や女性を含む幅広い意見を取り入れながら、地域の関係者が一体となって話し合い策定された地域計画の実現に向けて支援する必要があると考えています。 御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	B (一部反映)
133	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	集落営農組織について、任意組合のままのところもあれば、法人化したところもある。今後、育成という観点で、どのように進めていくのか。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の部隊的な取組において、集落営農の組織体制の強化への支援を追記しました。	B (一部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
134	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	担い手が不足する中、地域計画の策定は、将来どのように営農していくかということを考えるきっかけになった。今後は、策定して終わりではなく、地域計画を具体化していくため、講習会や講演会といった全県的な取組を行っていく必要があると考える。	地域計画の実現に向けた取組事例を共有するとともに、地域の実情にあった、様々な事業を活用しながら、関係機関・団体と連携しながら研修会等も含めて取り組んでいきます。 御意見のとおり、地域計画の見直しについては全県的な取組を行っていくことが必要と考えられることから、記載内容を修正しました。	B（一部反映）
135	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業者、担い手だけでなく、今後の人口減少を見据え、非農家といった方々にも農業に関わってもらえるような施策が必要だと思う。	これまで、地域での話し合いにより、地域農業マスタープランを作成・実行してきましたが、今後、高齢化や人口減少の本格化により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されます。 今後は、若年者や女性を含む幅広い意見を取り入れながら、地域の関係者が一体となって話し合い策定された地域計画の実現に向けて支援する必要があると考えています。 御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	B（一部反映）
136	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	本来であれば、家族経営単位、中小規模の農家が生計を立てられるような営農ができるようになることが必要だと思う。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	A（全部反映）
137	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	アプリを活用し、農業者と農業者ではない人とを結びつける取組を県全体で取り組んでほしい。	県では、就業を希望する高校生やU・Iターン希望者、子育て世代、シニア世代、民間企業の副業希望者、農業を副業的に営む経営体、外国人材などの多様な働き手を確保する取組を促進します。	C（趣旨同一）
138	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	集落営農組織の構成員の高齢化が進む中、広域化といった取組も必要になってきていると思う。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	B（一部反映）
139	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	多様な生産者の参画が記載されているが、企業、家族経営、中小規模の農家、非農家など、どのような生産者を想定しているのか。	地域農業の核となる経営体に加え、企業や小規模・兼業農家企業、集落営農組織、新規就農者、農業サービス事業体などを想定しています。	F（その他）
140	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	地域農業を維持していくためには、法人化した大規模経営体のみならず、小規模な経営体への支援も必要と考える。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	A（全部反映）
141	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	第三者継承について、県全体で情報を共有できるような仕組みを構築してほしい。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A（全部反映）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
142	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	人口減少下において、多様な農業人材の確保は重要である。生産強化ビジョンにおいて、より具体的な内容を記載してほしい。	県では、就業を希望する高校生やU・Iターン希望者、子育て世代、シニア世代、民間企業の副業希望者、外国人材などの多様な働き手を確保する取組を促進します。	C (趣旨同一)
143	その他	その他	その他	試験研究やドローンといった、最新技術の活用について、県と連携して進めていきたいと考えている。	スマート農業技術の普及には、関係機関・団体との連携が不可欠であり、現場のニーズを把握しながら、試験研究や現地実証、研修会の開催など、連携した取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
144	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	岩手県が持続可能な畜産県として維持・拡大していくためには、円滑な経営継承が必要である。リスト化するなどし、重要な経営資源を次の世代にスムーズに移行できる体制を整えほしいと思う。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A (全部反映)
145	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	共同利用施設の老朽化が課題となっており、今後の生産基盤をどのように再構築するかが重要だと考えている。	農業共同利用施設の計画的な再編、整備に向け、国事業が採択されるよう計画策定等を支援していきます。	C (趣旨同一)
146	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	大規模経営体が増加してきているが、これ以上、農地の受け皿となるには厳しい現状にあると感じる。	これまで、地域での話し合いにより、地域農業マスタープランを作成・実行してきましたが、今後、高齢化や人口減少の本格化により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されます。 今後は、若年者や女性を含む幅広い意見を取り入れながら、地域の関係者が一体となって話し合い策定された地域計画の実現に向けて支援する必要があると考えています。 御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	B (一部反映)
147	その他	その他	その他	国の5年間の集中投資という方針が示されていることから、県も、今後5年間で生産基盤の整備に向けて、関係団体とともに取り組んでほしい。	国では、平時からの食料安全保障を実現する観点から、初動5年間で農業の構造転換を集中的に推進することとしています。 生産基盤の整備など、ビジョンに盛り込んだ取組については、こうした国の対策も活用し、関係団体と連携しながら、毎年度具体化していくこととしており、御意見については、今後の取組の推進に当たり参考とさせていただきます。	D (参考)
148	その他	その他	その他	米の値段は上昇しているが、毎年一定の価格で推移することが農家には必要だと思う。	米の生産流通は、都道府県単位では完結せず、国全体での対応が必要であることから、国に対し国主導による実効的な対策を推進するよう要望しています。	D (参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
149	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	畜産については、産業動物獣医師の確保が課題であり、県からの支援をお願いしたいと考えている。	獣医療の安定的な提供に向けては、引き続き、広域振興局が主体となり地元の市町村や農業協同組合等と検討を重ねながら、各地域の実情に応じた獣医療が継続して提供されるよう取り組んでいます。 また、昨年度から、今後の獣医療提供体制のあり方について、県獣医師会や関係団体等と意見交換を始め、広域的な人材の活用や遠隔診療を活用した診療の効率化などを検討しており、今後も、大学や関係機関・団体等と連携しながら、獣医師確保に積極的に取り組んでいきます。	B（一部反映）
150	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	持続可能ではなく、儲かる農業にしなければならないというのが大前提であり、素案においては、中小規模の農家の支援の方向性が薄いと感じる。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	A（全部反映）
151	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	水稻の品種構成について、市場評価が高い品種構成をどうするか考える必要がある。	「いわてのお米ブランド化生産・販売戦略」及び「水稻品種選定と栽培管理指導方針」に基づき定めている品種配置計画により、農業団体等と実需者との結びつき状況等を踏まえながら適地適品種を推進しています。	D（参考）
152	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	県有種雄牛について、良質な肉牛生産につなげていくようなランドデザインが必要である。	本ビジョンに記載のとおり、ゲノム解析技術等を活用し、脂肪交雑やロース芯面積等、産肉能力が高い種雄牛を早期に造成するほか、牛肉の美味しさに関わる「脂肪の質・形状」などの指標の活用により、他県種雄牛との差別化を図ります。 種雄牛の造成については、令和6年1月から5月にかけて、県、全農、農協等で組織する「いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会」において、生産者と意見交換を行い、その内容も踏まえた今後の種雄牛造成の方向性を共有し、進めているところです。	D（参考）
153	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	米政策については、もっと積極的な取組が必要で、基盤整備を前提に米以外の生産性のある作物導入を進めるべきである。また、大豆の収量・品質低下の背景には水田での栽培による排水問題があり、水田農業の抜本的な対策が必要であると感じる。	地域特性を生かした野菜等の高収益作物や麦・大豆等の転換作物の作付拡大等を図り、生産者の所得確保・向上に取り組んでいます。 大豆の収量・品質向上に向け、国事業を活用した湿害対策技術や機械の導入等を支援していきます。	D（参考）
154	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	担い手の確保については、家族内の経営移譲だけでなく第三者継承が重要。団体だけでなく県や市町村との協力が必要である。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A（全部反映）
155	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	岩手の農畜産物が安全・安心であることを県としてもPRしていただきたい。	第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくり」の具体的な取組において、環境負荷低減により生産された農産物の流通・消費の促進を盛り込み、販路の拡大や理解の情勢を進めていくこととしています。	C（趣旨同一）
156	その他	その他	その他	鳥獣被害については、山間地では深刻な問題。抜本的な解決は難しいが、対策を盛り込んでほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A（全部反映）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
157	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域で魅力ある農業ができるよう、安定した生産生活ができる作物の紹介や提示をお願いしたい。	中山間地域においては、小面積でも収益が確保できる品目としてトマトやピーマン等の生産振興に取り組んでいるところ。また、温暖化などを見据えた産地づくりが重要であることから、今後、温暖化に対応した品目の導入検討などを進めていきます。	F(その他)
158	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	資材価格高騰の中で、地域資源を活用した低コスト化のための対策を盛り込んでほしい。	第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくり」の具体的な取組において、堆肥等の地域資源の活用を盛り込み、供給可能な堆肥の情報をホームページ等で発信するとともに、堆肥のペレット化等を推進していきます。	C(趣旨同一)
159	その他	その他	その他	鳥獣被害が深刻であり、対策を盛り込んでほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A(全部反映)
160	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	中山間地域が多い地域では、兼業農家対策をしっかりと行わない限り、予測を超えたスピードで農家が減少していくと思う。	本県の中山間地域では、不利な生産条件の中で、小規模・兼業農家など、多くの生産者が生産活動に携わっており、こうした多様な生産者が参画し、農業生産や地域活動の活性化を通じて、活力ある農業・農村を実現していくことが重要です。 本ビジョンにおいては、中山間地域が有する特性を生かした農畜産物の産地力向上に加え、小規模・家族経営を中心とする集落営農組織等の経営規模の拡大などに取り組むこととしています。	C(趣旨同一)
161	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	若い農業者として「稼げる農業」を前提に発展していきたいと考えている。農地集積をもっと加速的に進めることで、やりやすい環境をつくれれば、新規就農者も増えていくと思う。	今後は、若年者や女性を含む幅広い意見を取り入れながら、地域の関係者が一体となって話し合い策定された地域計画の実現に向けて支援する必要があると考えています。 御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	B(一部反映)
162	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	輸出については、オール岩手で取り組み、海外でも認知されていくようにするべきである。	輸出先国での県産農林水産物の認知度向上、販路拡大に向けて、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D(参考)
163	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	女性の目線からは、安全で安心な食べ物を生産・消費できることが大切だと考えている。	第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくり」の具体的な取組において、環境負荷低減を図る取組と、環境負荷低減により生産された農産物の流通・消費を促進する取組を盛り込んでいます。	C(趣旨同一)
164	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	岩手の安全で安心な農産物をもっとアピールし、オール岩手として農産物をPRしていくべきだと思う。	トップセールスや量販店や飲食店等の民間企業と連携しキャンペーンやフェアの開催など、販売促進や産地の評価・信頼向上に取り組んでいきます。	D(参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
165	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	県オリジナル水稻新品種「白銀のひかり」については、農家の期待が大きい。どこの誰に食べてもらうのかという販売戦略と、まだ確立していない栽培技術の両面から取り組む必要があると思う。	県内外の量販店や中食・外食への販路拡大を図りながら、栽培マニュアルを活用した高品質・良食味米の生産に取り組んでいきます。	D(参考)
166	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	知事によるトップセールスの効果は大きいと思う。生産者の手取りが残るような体制で輸出を進めていきたいと考えている。	輸出先国での県産農林水産物の認知度向上、販路拡大、生産者の収益向上に向けて、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D(参考)
167	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	輸出については、輸送コストやリスクなどの課題が多いため、農業団体や行政が一体となった取組が必要だと考えている。	輸出先国での県産農林水産物の認知度向上、販路拡大に向けて、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D(参考)
168	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	輸出の最大の問題は、単価だと思う。	米の輸出については、今後の動向を注視し、引き続き、品質の高さを評価いただきながら、関係機関・団体と連携して進めていきたいと考えています。	D(参考)
169	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	米の生産量が年々減少しており、輸出に回せる量はあまりないのが現実。生産者の手取りが確保できなければ出荷は難しいと思う。	輸出先国での県産農林水産物の認知度向上、販路拡大、生産者の収益向上に向けて、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D(参考)
170	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	輸出は岩手県一本、オール岩手として取り組むべきだと思う。	輸出先国での県産農林水産物の認知度向上、販路拡大に向けて、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D(参考)
171	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	国内で米が足りない状況での輸出については、調整が必要だと思う。ただし、輸出自体に反対するわけではなく、オール岩手として進めるべきだと考える。	米の輸出を取り巻く状況は、近年、厳しい状況にありますが、これまで築いてきた販路を失うことがないよう、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D(参考)
172	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	外国人旅行客が増加している中で、来日している外国人に日本の農産物をもっと消費してもらおうという発想も重要ではないかと考えている。	「岩手ならではの」を求めて来県する外国人観光客等のニーズに応える、魅力ある生産者等の地域資源を活用した取組を促進していきます。	D(参考)
173	その他	その他	その他	意見交換の場は定期的に設けるべきだと思う。現場の声と行政の対応が直接つながる貴重な機会である。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C(趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
174	その他	その他	その他	生産強化ビジョンについては実効性が重要であり、絵に描いた餅にならないよう、しっかりとした考えに基づいたビジョンをつくり上げてほしい。	本ビジョンは、「食料・農業・農村基本計画」も踏まえつつ、「いわて県民計画(2019～2028)」に掲げる政策を一層推進するとともに、本県農業を強化するため本県農業を強化するため策定するものです。 策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 こうした御意見や、本県農業の現状と課題を踏まえ、本ビジョンにおいて、本県の農業生産の増大や、人材の確保・育成の方向性を示していきます。	C (趣旨同一)
175	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	沿岸地域での獣医師確保について、更に対策を強化するような内容としてほしい。	獣医療の安定的な提供に向けては、引き続き、広域振興局が主体となり地元の市町村や農業協同組合等と検討を重ねながら、各地域の実情に応じた獣医療が継続して提供されるよう取り組んでいます。 また、昨年度から、今後の獣医療提供体制のあり方について、県獣医師会や関係団体等と意見交換を始め、広域的な人材の活用や遠隔診療を活用した診療の効率化などを検討しており、今後も、大学や関係機関・団体等と連携しながら、獣医師確保に積極的に取り組んでいきます。	B (一部反映)
176	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	高温対策について、水稻に関する記述はあるが、野菜に関する具体的な取組はないのか。野菜でも、高温対策は喫緊の課題であると感じる。	農業研究センターにおいて、高温下でも収量・品質の低下しにくい品種の選定や高温対策技術等の開発に取り組むこととしており、第8章「試験研究の推進」に記載しています。	C (趣旨同一)
177	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	「もも」等の新品目の導入に取り組むとのことだが、「もも」以外にも候補はあるのか。りんごにおいて、高温による着色不良が深刻化しており、「もも」への転換の動きがあるが、「もも」と早生のりんごとを近接して栽培した場合、農薬のドリフトの問題が懸念され、園地をそれぞれが離れた場所に集約する必要も出てくる。りんご以外の新たな品目を検討していくのか。又は、「もも」の全面的な導入を目指しているのか。	「もも」等の新品目の導入については、温暖化による着色不良等の発生リスクが高いりんご早生品種に代わる有望な品目として、品種選抜や優良品種の作付実証に取り組むものです。 「もも」以外の新品目としては、一斉収穫が可能で、りんごごとの作業親和性が優れている「西洋なし」を候補としています。	D (参考)
178	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	20年前にほ場整備事業で暗きょ排水を整備していただき、作業がしやすくなったが、20年が経過し、排水効果が低くなってきている。暗きょ排水の再整備について、ビジョンに盛り込んでほしい。	本ビジョンの中で、排水改良し推進することとしており、暗渠排水は、新規整備、再整備に関わらずこれらに含まれます。	A (全部反映)
179	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	「環境負荷低減と安全安心な産地づくり」は、とても良い政策だと思うが、実際には、例えば有機農業では、従来の栽培方法よりも手間がかかるのに価格に反映されにくいという課題がある。そのコストを価格に適切に転嫁できるよう、消費者への啓発活動もセットで盛り込んでほしい。	第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくり」の具体的な取組において、環境負荷低減を図る取組と、環境負荷低減により生産された農産物の流通・消費を促進する取組を盛り込んでいます。	C (趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
180	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	親元就農や第三者継承の希望者に対する円滑な経営継承は大変よい取組だと思う。こういった取組への支援を手厚くしてほしい。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A (全部反映)
181	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域の取組として、酪農ヘルパーやコントラクターなど外部支援組織の体制強化が盛り込まれているが、岩手県では、和牛繁殖ヘルパーを導入する考えはあるか。和牛繁殖や肥育の分野でも、ヘルパー事業があれば活用したい人が増えると思う。	肉用牛ヘルパーについては、JAが中心となって運営し、肉用牛の飼養管理や市場上場時の家畜輸送などを行う組織が5組織あります。本ビジョンは、酪農ヘルパーやコントラクター、キャトルセンターなどの法人化や人材確保を促進するものです。	D (参考)
182	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	耕畜連携を一層進めるべき。酪農家が求めるWCSと稲作農家がつくるWCSとの間には認識の違いがあり、稲作農家に丸投げするのではなく、より良いものができる仕組みづくりが必要であると感じる。	県内において、稲作経営体から大規模酪農経営体へ稲WCSを供給する取組が行われており、そうした事例をモデルに、品質・価格・保管場所等の流通の条件を調査し、情報提供するとともに、耕種と畜産のマッチングを図り、連携を強化していきます。	C (趣旨同一)
183	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	中山間地域や条件の悪いほ場では、ロボットトラクタが適さない土地が多いと感じる。そのためにも、米だけでなく、将来的にほかの作物も栽培できるよう、基盤整備を一層進めるべき。	第7章「地域ごとの展開方向」の第2節「中山間地域」において、地域の特性に応じた基盤整備の推進の取組を盛り込みし、中山間地域等のほ場においてもきめ細かな基盤整備を推進していきます。	A (全部反映)
184	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	スマート農業技術の活用について、野菜栽培で温度や二酸化炭素濃度などのモニタリングデータを収集しているが、データの生かし方が分からないのが実情である。データの活用方法への支援などを盛り込んでほしい。	本ビジョンは、農業生産の増大などの方向性を示すものであるため、スマート農業技術の活用方法までは明記していませんが、御意見と同様の課題認識であり、今後の農業DX推進の取組の参考とさせていただきます。	D (参考)
185	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	りんごの花粉について、現在、中国で火傷病が発生した影響で中国産花粉の輸入が止まっている。県内の農家は自家採取の花粉を使用していると思うが、生産者の高齢化が進むにつれ、花粉採取の作業が負担となる。大規模な産地で花粉を安定供給できるような拠点づくりを検討してほしい。	御意見を踏まえ、花粉の安定供給について、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の具体的な取組において、花粉の安定供給を追加しました。	A (全部反映)
186	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	—	食料自給率の目標値は、意欲的な水準を目指してほしい。	本県のカロリーベースの食料自給率は、令和4年時点で全国第6位であることから、令和10年までに、令和4年時点の全国第5位の水準まで上昇させることを目指します。	A (全部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
187	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	担い手が活躍できる環境の整備が重要で、若い担い手が、ITやスマート農業技術を活用できるような施策を進めてほしい。	御意見と同様の課題認識であり、具体的な取組において、スマート農業技術を活用した生産性向上の取組を位置付けています。	C (趣旨同一)
188	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	夏の高温の影響で、米や大豆の品質が低下してきている。高温対策や品種開発がますます必要になっている。	気候変動への対応として、米については高温時の水管理の指導に加え、農業研究センターにおいて、高温耐性評価施設を整備し、高温登熟耐性を持つ品種開発に取り組むこととしており、引き続き、良食味・高品質米の生産に向け取り組んでいきます。また、大豆については、干ばつ時のかん水の指導に加え、高温に強い品種の導入について検討を進めていきます。	C (趣旨同一)
189	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	中山間地域で畦畔を除去して作業をしやすくしているが、大型機械で作業しようとする、農道が狭いといった課題が出てきている。こうした課題に対しても、きめ細かく対応してほしい。	第7章「地域ごとの展開方向」の第2節「中山間地域」において、地域の特性に応じた基盤整備の推進の取組を盛り込みし、中山間地域等のほ場においてもきめ細かな基盤整備を推進していきます。	A (全部反映)
190	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	生産者には米の問合せが多いものの、在庫が少なく、販売できない状態が続いている。輸出促進ということもあるが、地元の人々の食料の確保が一番大事であり、これを一番目に考えてほしい。	食料供給基地としての役割を果たしていくため、食料自給率が100パーセントを超える本県の強みを生かしながら、県オリジナル品種の生産拡大、生産性の向上等を推進し、県内をはじめ、国内外への米の供給能力を拡大していきます。	C (趣旨同一)
191	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	—	具体的な取組	クマ、イノシシ、シカなどの野生鳥獣による農作物被害が、特に中山間で多くなってきている。しっかりとした対策を講じてほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A (全部反映)
192	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	担い手と多様な担い手が混在しており、農村振興としては農村RMOの取組を進めるなど、産業政策と地域政策を分けて推進していく必要があると思う。	県では、農村RMO形成に取り組む地域の掘り起こしや、農村RMOの活動支援などを行っています。御意見を踏まえ、農村RMOの支援に関する記載を追加しました。	A (全部反映)
193	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	第三者継承について、生産者と行政機関とが連携して推進していく必要がある。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A (全部反映)
194	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	生産性向上とは別の視点になるが、地域の中で、農業が地域福祉に貢献するという観点で、農福連携の推進は重要だと思う。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、関係機関・団体と連携した、農福連携のマッチング等への支援を追加しました。	A (全部反映)
195	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	担い手の高齢化が課題であり、人材の確保・育成に関する目標の設定が必要ではないか。	御意見も踏まえ、農業生産の目標として、「新規就農者数」を盛り込みました。	A (全部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
196	その他	その他	その他	生産強化ビジョンは策定して終わりではなく、いろいろな人との共有が大事だと思うし、策定後も生産者と県が意見交換を行う機会を継続していくべきだと思う。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C (趣旨同一)
197	その他	その他	その他	農業法人に対しては、補助事業よりも、所得補償や、ベーシックインカムのような施策が必要ではないか。	農業経営のセーフティネットについては、収入の減少を補填する収入保険制度等にとどまり、資材価格の高騰に対応していないところです。県では、厳しい経営環境におかれている生産者の状況を踏まえ、収入保険や各種類似保険制度について、生産者のニーズや関係団体の意見を踏まえた見直しなどを要望しています。 今後も、様々な機会を捉え、国に対する要望を行うこととしており、御意見については、要望を行う際の参考とさせていただきます。	D (参考)
198	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	岩手県の小麦の生産量は東北第1位であり、今後も、生産拡大を進めるべき。	東北第1位の作付面積を維持しながら、排水対策の徹底、多収性・病害抵抗性に優れた品種への転換など、単収向上による生産量の拡大に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
199	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	「金色の風」の生産量をもっと増やすことが必要だと考える。現時点では、米のランキングの対象外となっており、生産量を増やして、米のランキングで「特A」を取ることができれば、PRにつながると思う。	「金色の風」は、倒伏しやすく収量が上がりにくい品種のため、高い栽培技術を有する生産者を中心に作付けしているところであり、生産量を維持しながら、発信力の高い米穀専門店との結びつきを強化し、PRに取り組んでいきます。	D (参考)
200	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	—	具体的な取組	シカやイノシシによる農作物被害が大変な状況にあり、対策を強化するべき。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくりの推進」において、鳥獣被害防止対策を盛り込みました。	A (全部反映)
201	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	有機農産物の学校給食への食材供給を一層進めてほしい。安定的な出口や、供給先があれば、生産者が有機農業に取り組みやすくなると思う。	第5章「環境負荷低減と安全・安心な産地づくり」の具体的な取組において、環境負荷低減により生産された農産物の流通・消費の促進を盛り込み、販路の拡大や理解の情勢を進めていくこととしています。	C (趣旨同一)
202	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	生産者の減少に歯止めがかからない中、生産者にとっては、価格保障や所得補償が必要ではないか。	農業経営のセーフティネットについては、収入の減少を補填する収入保険制度等にとどまり、資材価格の高騰に対応していないところです。県では、厳しい経営環境におかれている生産者の状況を踏まえ、収入保険や各種類似保険制度について、生産者のニーズや関係団体の意見を踏まえた見直しなどを要望しています。 今後も、様々な機会を捉え、国に対する要望を行うこととしており、御意見については、要望を行う際の参考とさせていただきます。	D (参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
203	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	多様な担い手、働き手を守り育てるためには、小規模農家や家族経営への支援も必要だと思う。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	A (全部反映)
204	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	新規就農者の確保のためには、親元就農する若者への支援の充実が必要だと思う。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、親元就農等に対する円滑な経営継承等を盛り込み、取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
205	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	子どもたちが農業に触れる機会が少なくなっているように感じる。岩手で育っているにもかかわらず、農家になりたいという児童・生徒が少なくなっており、教育委員会とも連携して、農業に触れる環境をつくっていくべきだと思う。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、小中学生に対する就農意欲の喚起を盛り込み、取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
206	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	これからの岩手の農業の発展のためには、女性の活躍が大事であり、アンコンシャス・バイアスの解消をより一層進めるべきと感じる。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、女性農業経営者が活躍しやすい環境整備を盛り込み、取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
207	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業体験は、食育にはつながるが、将来の夢や職業選択にはつながらないように感じる。生産者の思いとか、生産の重要性などを子どもたちに教えるなどの工夫が必要だと思う。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、小中学生に対する就農意欲の喚起を盛り込み、取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
208	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	ビジョンに掲げる農業生産の拡大のためには、どの業界でも人材の奪い合いになっており、人材の確保が大事である。	御意見も踏まえ、農業生産の目標として、「新規就農者数」を盛り込み、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」に基づき、具体的な取組を進めていきます。	A (全部反映)
209	その他	その他	その他	関係人口を拡大するため、農泊体験や、グリーン・ツーリズムに力を入れるべきだと思う。	県では、関係人口拡大を図るため、多様な旅行者ニーズに対応できる人材の確保・育成や、農山漁村への体験型教育旅行の誘致活動等を実施しており、さらに、令和7年度からは、各地域協議会の活性化支援や広域連携による教育旅行等受入体制の整備支援等に取り組んでいるところです。 御意見も踏まえ、引き続き、都市との関係人口の拡大に向けた施策を検討していきます。	C (趣旨同一)
210	その他	その他	その他	農業の生産について、消費者にも知って機会があればよいと思う。今回の意見交換は、こうした面でも、意味のあることだと思う。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C (趣旨同一)
211	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	女性でも省力的に農業を行うことができるよう、スマート農業を一層進めていく必要があると思う。	御意見と同様の課題認識であり、「具体的な取組」にスマート農業技術を活用した生産性向上の取組を守男懇でいるところです。	C (趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
212	産地づくりを支える人材の確保・育成		具体的な取組	農業はキャリアパスが明確ではないため、従事しにくいのではないかと感じる。就農から、経営の発展に至るプロセスなり、キャリアパスを明確にし、それを情報発信していくことが重要である。そうすることで、就農する人が将来のビジョンを描けるようになると思う。	本ビジョンは、農業生産の増大などの方向性を示すものであるため、キャリアパスの明確化の課題までは明記していませんが、今後の若い世代への就農意欲の喚起の取組の参考とさせていただきます。	D(参考)
213	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	大学生が、一日のうちSNSに費やす時間は増加傾向にあり、販路の拡大に当たっての情報発信として、SNSマーケティングを検討していくことが重要だと思う。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」において、SNS等を活用した情報発信など、具体的な取組を追加しました。	A(全部反映)
214	その他	その他	その他	インバウンドが増加している現状を踏まえ、農業を観光資源として活用するような取組も必要だと思う。	県では、インバウンド等の多様なニーズに対応できる受入体制を強化するため、各地域における協議会での受入体制強化プランの策定支援や、広域連携取組モデル地区における広域連携計画の策定等を支援しているところです。 御意見も踏まえ、引き続き、グリーン・ツーリズムなど、農業を観光資源として活用する取組を支援していきます。	C(趣旨同一)
215	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業の人材の確保と、障がい者雇用を農業で生みだしていくという視点から、農福連携を推進していくべきだと思う。花巻市の事例では、雇用の確保のみならず、障がい者を雇用することで生産力も上がっているということがある。福祉的側面だけでなく、農業生産の側面でも重要である。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、関係機関・団体と連携した、農福連携のマッチング等への支援を追加しました。	A(全部反映)
216	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	学校は地域住民にとって、馴染みのある施設であり、廃校を活用して、地域コミュニティの施設や、農産物の加工場を整備するなどして、農業を軸に地域外から人を呼び込むことができればよいのではないかと考える。	県内では、農村RMOが廃校を活動拠点とし、農産物の加工場や地域内外の方々との交流施設等として活用する取組が行われています。 御意見を踏まえ、農村RMOに関する記載を追加しました。	B(一部反映)
217	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農学部の子学生であっても、農家や実際の農業生産の現場に触れる機会は少ない。タイミーなどを活用し、すき間時間を活用して、農業に触れる機会をつくっていくことが重要だと思う。	県では、就業を希望する高校生やU・Iターン希望者、子育て世代、シニア世代、民間企業の副業希望者、農業を副業的に営む経営体、外国人材などの多様な働き手を確保する取組を促進していきます。	C(趣旨同一)
218	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	6次産業化など、農業と他産業との連携は、農家にとってハードルが高いと思う。それぞれをつなぐ中間支援組織のようなものがあればよいのではないかと考える。	県では、6次産業化や他産業との連携による新たな事業価値の創出に取り組む生産者等に対し、「いわて地域資源活用・地域連携サポートセンター」(以下、「サポートセンター」。)を設置し、伴走支援を行っております。引き続き、サポートセンターを軸として、6次産業化の取組みを支援していきます。	C(趣旨同一)
219	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業に携わる人材を確保し、労働力不足を解消するため、デイワークなどのアプリを活用したマッチングを進めてはどうかと思う。間口を広げることで、農業の労働力不足につながると思う。	県では、就業を希望する高校生やU・Iターン希望者、子育て世代、シニア世代、民間企業の副業希望者、農業を副業的に営む経営体、外国人材などの多様な働き手を確保する取組を促進していきます。	C(趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
220	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業就業人口が減少している中、学生が農業アルバイトをできるような仕組みづくりを考えてはどうかと思う。学生生活を送る中で、農業に触れる機会が少なく感じており、学生の進路選択の一つとして、農業という職業が加わるようになるとよいと思う。学生のハードルを下げるため、長期ではなく短期とし、研修制度も導入してはどうかと考える。	県では、就業を希望する高校生やU・Iターン希望者、子育て世代、シニア世代、民間企業の副業希望者、農業を副業的に営む経営体、外国人材などの多様な働き手を確保する取組を促進していきます。	C (趣旨同一)
221	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域を維持していくためには、一般社団法人が農業を行う仕組みづくりや、農村RMOなどの地域運営組織の創出が大事だと思う。特に、県北地域に農村RMOが無い状況にあり、こうした地域への支援が必要だと思う。	県では、一般社団法人による農地の一元的管理やサービス事業体を活用した経営事例などのモデル創出を推進するとともに、農村RMO形成に取り組む地域の掘り起こしや、農村RMOの活動支援などを行っています。御意見を踏まえ、農村RMOの育成や活動支援に向けた記載を追加しました。	B (一部反映)
222	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	畜産を推進するためには、獣医師不足に対応していかなければならないと思う。特に、中山間地域で効率的に診療を行っていくためには、リモート診療などを進めていく必要があると感じる。	獣医療の安定的な提供に向けては、引き続き、広域振興局が主体となり地域の市町村や農業協同組合等と検討を重ねながら、各地域の実情に応じた獣医療が継続して提供されるよう取り組んでいます。また、昨年度から、今後の獣医療提供体制のあり方について、県獣医師会や関係団体等と意見交換を始め、広域的な人材の活用や遠隔診療を活用した診療の効率化などを検討しており、今後も、大学や関係機関・団体等と連携しながら、獣医師確保に積極的に取り組んでいきます。	B (一部反映)
223	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	女性活躍の環境づくりや、地域振興、食品産業や観光業との連携という観点で、加工販売への支援が重要だと思う。	地域振興や食産業、観光業等多様な産業との連携等様々な観点から6次産業化等加工品販売等は重要であると認識しており、県が設置している「いわて地域資源活用・地域連携サポートセンター」の伴走支援や、食のプロフェッショナルアドバイザー等専門家派遣を通じて、加工品販売を含めた農畜産物の高付加価値化の支援に取り組んでいるところです。御意見も踏まえ、引き続き、取組を進めていきます。	C (趣旨同一)
224	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	女性活躍を進めるためには、農村社会におけるアンコンシャス・バイアスの解消が必要だと感じる。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、女性農業経営者が活躍しやすい環境整備を盛り込み、取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
225	その他	その他	その他	農業生産強化ビジョンが、食料・農業・農村基本法の全てを網羅していないのであれば、その点を明示すべき。そうしなければ、このビジョンが、食料・農業・農村基本法の改正を受けた、県の基本計画という位置付けであると解されてしまう。	御意見を踏まえ、第1章「はじめに」の「農業分野の個別計画との関係」において、生産振興と合わせて、農村振興については、「いわて農業農村活性化推進ビジョン」等に基づく取組を推進していく旨を追記しました。	B (一部反映)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
226	その他	その他	その他	本日の意見交換では、一般県民から見た時の岩手の農業がどうあるべきかという提言ができたのではないかと感じている。今回の提言は、実際に集落でフィールドワークを行い、それを自分に頭で考えて、まとめたものである。せっかくの機会なので、一つ一つ吟味して、施策への反映を検討してほしい。	本ビジョンの策定に当たっては、生産者や農業団体のみならず、広く御意見をいただくため、市町村、農業協同組合、農業団体、消費者団体、中小企業団体に加え、県内外の大学生との意見交換を実施しました。意見交換でいただいた御意見については、内容を検討し、ビジョンへの反映に努めたところです。	B (一部反映)
227	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	中山間地域でスマート農業を進める際には、電波が届かないなどの課題があり、こうした地域ごとの課題に丁寧に対応していくことが重要だと思う。	本ビジョンは、農業生産の増大などの方向性を示すものであるため、中山間地域でのスマート農業導入の課題までは明記していませんが、御意見と同様の課題認識であり、今後の農業DX推進の取組の参考とさせていただきます。	D (参考)
228	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	世界的に人口が増えていく中、生産性を向上させるための技術開発は、ますます重要になってくると思う。	御意見と同様の課題認識であり、「具体的な取組」にスマート農業技術を活用した生産性向上の取組を位置付けたところです。	C (趣旨同一)
229	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	企業活動の中で、農業を取り入れていけないかと考えている。企業が農業に参入するためのハードルを下げるような施策を考えてほしい。	県では、生産現場の人手不足や生産性向上等の課題に対応するため、農業者の下支えとなる農作業の受託や機械等のリース・レンタル、人材派遣など、労働力確保等をサポートする農業支援サービス事業体の育成や活用を推進します。	C (趣旨同一)
230	その他	その他	その他	生産者だけでなく、中小企業者など、異業種との意見交換も実施しながら、農業施策を進めていってほしい。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C (趣旨同一)
231	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	環境変化や気候変動に耐えられる多収品種の開発、生産拡大は重要であり、重点的に取り組んでほしい。	水稻においては、気候変動への対応として、農業研究センターにおいて、高温耐性評価施設を整備するとともに、沖縄県との連携により、高温登熟耐性を持つ有望品種の早期開発に重点的に取り組んでいきます。	C (趣旨同一)
232	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	気候変動への対応が大事であり、「もも」や「なし」の導入に取り組んでほしい。	温暖化による平均気温の上昇に伴い栽培適地が拡大している「もも」や「なし」について、本県でも広く栽培できる可能性があることから、品種選抜や優良品種の作付実証に取り組むこととしています。	C (趣旨同一)
233	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	りんどうは多年生で、定植から3年目でやっと収穫ができる。その間に小ぎくなど一年草を組み合わせるような技術開発に取り組んでほしい。	りんどうは定植後1~2年間は未収益期間となることを踏まえ、計画的な新改植を促進するとともに、新規栽培者に対しては、早期の経営安定に向けて、小ぎくなど複数品目を組み合わせた栽培技術の提案などを含め、生産者の個別課題に応じた支援に取り組んでいます。	D (参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
234	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	県産、国産飼料の自給率を上げることは重要。小規模農家には草地がないのでコントラクタとの連携・提携を進める支援が必要だと思う。	飼料の自給率向上に向けては、コントラクターの担う役割は大きいと考えており、コントラクターを含む外部支援組織の体制強化を図っていきます。	C (趣旨同一)
235	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	他県にはない特色を持つりんどうを品種開発できたらよいと思う。りんどう、小ぎくなどは、盆・彼岸系の地味なイメージがあるが、盆だけでなく一年を通して人気がある花を広げられたら、いわての花きイメージも上がると思う。	りんどうの仏花としての利用以外の需要拡大に向けて、新たな特性を持つ品種の開発に取り組んでいることから、その旨を追記しました。	B (一部反映)
236	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	非農家だが、小さい頃に牛に触れて興味がわいた。小さい頃から農業体験をできるようにすればよいと思う。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、小中学生に対する就農意欲の喚起を盛り込み、取組を推進することとしています。	C (趣旨同一)
237	その他	その他	その他	長年、生産コストが販売価格に反映されない経営が続いている。これが農業者の意欲を削ぎ、後継者不足の最大の原因である。ビジョンの目標達成には、再生産可能な価格形成の実現が不可欠である。	農業経営のセーフティネットについては、収入の減少を補填する収入保険制度等にとどまり、資材価格の高騰に対応していないところです。県では、厳しい経営環境におかれている生産者の状況を踏まえ、収入保険や各種類似保険制度について、生産者のニーズや関係団体の意見を踏まえた見直しなどを要望しています。 今後も、様々な機会を捉え、国に対する要望を行うこととしており、御意見については、要望を行う際の参考とさせていただきます。	D (参考)
238	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農業従事者の激減は深刻で、アンケートでは8割が将来の離農を考えているのが実情。国の政策も毎年変わる中で、担い手が将来展望を描きにくい。ビジョンに掲げる組織運営や担い手育成について、より具体的な施策が必要である。	本ビジョンは、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示し、本県農業を強化するため策定するものです。 ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、御意見も踏まえ、取組の内容や規模について、毎年度の予算編成において検討していきます。	D (参考)
239	その他	その他	その他	夢のある目標も、実現するための国・県の予算拡充がなければ画に描いた餅になる。全ての施策の実効性を担保する、十分な予算確保を強く要望する。	本ビジョンは、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示し、本県農業を強化するため策定するものです。 ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、御意見も踏まえ、取組の内容や規模について、毎年度の予算編成において検討していきます。	D (参考)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
240	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	地域の家畜診療体制は危機的状況にある。計画に「協議会を設置し対応する」と明記されたことは評価するが、一刻も早い体制構築が必要である。	獣医療の安定的な提供に向けては、引き続き、広域振興局が主体となり地元の市町村や農業協同組合等と検討を重ねながら、各地域の実情に応じた獣医療が継続して提供されるよう取り組んでいます。 また、昨年度から、今後の獣医療提供体制のあり方について、県獣医師会や関係団体等と意見交換を始め、広域的な人材の活用や遠隔診療を活用した診療の効率化などを検討しており、今後も、大学や関係機関・団体等と連携しながら、獣医師確保に積極的に取り組んでいきます。	B（一部反映）
241	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	温暖化の影響でカメムシ等の発生状況が変化し、従来の防除体系では対応が困難になっている。環境負荷低減との両立は難しい課題であり、新たな技術指導や支援策が求められる。	本ビジョンでは、温暖化に伴う病害虫防除の課題までは明記していませんが、御意見と同様の課題認識であり、今後の技術指導等において適切に対応してまいります。	D（参考）
242	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	中山間地域ではほ場整備が遅れており、担い手不在で事業の同意形成も難しい。食料生産を維持するため、不利な条件の地域にこそ手厚い支援が必要である。	第7章「地域ごとの展開方向」の第2節「中山間地域」に地域の特性に応じた基盤整備の推進の取組を記載し、中山間地域等のほ場においてもきめ細かな基盤整備を推進してまいります。	A（全部反映）
243	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	「銀河のしずく」等の作付け拡大のため、品質を維持することを前提に、標高などの栽培基準を柔軟に運用する実証・検討を望む。	「銀河のしずく」は、過去の気温をもとに栽培適地を設定しており、近年の気候変動や地域の状況を踏まえ、栽培適地を検討してまいります。	D（参考）
244	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	輸出については、国ごとに異なる検疫やコストが障壁となっている。県が主体となり、ロットの集約や一本化した支援体制を構築しないと、他県との競争には勝てない。	輸出先国での県産農林水産物の認知度向上、販路拡大に向けて、農業団体、市町村及び関係団体等と連携して取り組んでいきます。	D（参考）
245	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	GAP認証の取得・更新にかかる負担が大きい。付加価値向上につながるよう、消費や販売と連動した仕組みづくりが必要である。	第三者認証GAP取得の費用負担については、御意見と同様の課題認識であり、今後のGAP推進の取組の参考とさせていただきます。	D（参考）
246	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	本県の強みである「産直」や日本一の認証数を誇る「GI(地理的表示)」の活用をビジョンにもっと明確に位置づけるべき。	御意見を踏まえ、生産者の所得向上に向け、産直の販売力等の強化に関する取組を、「地域内消費や県産食材の利用拡大の推進」の項目に、GIの活用等に関する取組を「県産農畜産物の輸出促進」の項目に追記しました。	B（一部反映）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
247	その他	その他	その他	ビジョン策定後が本番であり、実効性が問われる。県、農業団体、そして市町村も含む関係者全員が、それぞれの立場でビジョン実現に向けて行動することが重要。国の政策も流動的であるため、状況に合わせて随時見直しを行う前提で、共に前進したい。	本ビジョンの実効性を高めていくためには、施策を着実に実施し、その進捗や成果、課題等の把握・分析を通じて、次に実施する施策を見直していくことが重要です。本ビジョンにおいても、政策評価の取組の実績を踏まえつつ、PDCAサイクルを確立し、設定した指標に基づく進捗管理を行います。具体的には、設定した指標について、年度ごとにその進捗状況や成果、課題等の分析を実施し、更に必要な対策の追加や見直しを行い、次年度以降の施策・事業に反映します。	C (趣旨同一)
248	環境負荷低減と安全・安心な産地づくり	—	具体的な取組	豚と鶏を増産する目標を立てているが、化製場の課題をどのように解決していくかを示してほしい。	化製場は、畜産振興を図る上で不可欠な施設です。県では、臭気の改善に向け、昨年度から畜産副産物の排出事業者等と意見交換を重ね、臭気対策の取組が継続して行われるよう、排出事業者に対し、原料の適切な保管、運搬を促すことに加え、計画的な改修や新築を含めた対策の検討を進めています。今後も本県の化製場がその役割を果たしていくことができるよう、関係機関・団体と連携しながら取り組んでいきます。	B (一部反映)
249	その他	その他	その他	生産者が再生産できるよう、適正な価格形成について、しっかりと国に働きかけていくべきである。	農業経営のセーフティネットについては、収入の減少を補填する収入保険制度等にとどまり、資材価格の高騰に対応していないところです。県では、厳しい経営環境におかれている生産者の状況を踏まえ、収入保険や各種類似保険制度について、生産者のニーズや関係団体の意見を踏まえた見直しなどを要望しています。今後も、様々な機会を捉え、国に対する要望を行うこととしており、御意見については、要望を行う際の参考とさせていただきます。	D (参考)
250	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	輸出米の生産に当たっては、生産コストに見合った収入が得られるような仕組みが必要だと思う。	国に対し、輸出用米生産において主食用米並の所得を確保できる仕組みを構築するとともに、こうした仕組みの実施に必要な予算を十分措置するよう要望しています。また、県としても直播、高密度播種苗移植栽培等の導入による生産コスト低減を推進していきます。	D (参考)
251	その他	その他	その他	政府備蓄米の放出など、国の農業政策は目まぐるしく変わっている状況にある。ビジョン策定後も、こうした国の農業政策に対応し、見直すべきところは見直すなど、臨機応変に対応してほしい。	本ビジョンの実効性を高めていくためには、施策を着実に実施し、その進捗や成果、課題等の把握・分析を通じて、次に実施する施策を見直していくことが重要です。本ビジョンにおいても、政策評価の取組の実績を踏まえつつ、PDCAサイクルを確立し、設定した指標に基づく進捗管理を行います。具体的には、設定した指標について、年度ごとにその進捗状況や成果、課題等の分析を実施し、更に必要な対策の追加や見直しを行い、次年度以降の施策・事業に反映します。	C (趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
252	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	農地の維持には小規模農家の果たす役割が大きいと思う。こうした農家への支援も行ってほしい。	御意見を踏まえ、第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組について、記載内容を修正しました。	A(全部反映)
253	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	—	食料自給率は、現状よりも上げる目標を設定すべき。	本県のカロリーベースの食料自給率は、令和4年時点で全国第6位であることから、令和10年までに、令和4年時点の全国第5位の水準まで上昇させることを目指します。	A(全部反映)
254	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	食料自給率目標を達成するためには、ほ場整備の推進が重要だと思う。	御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 本ビジョンに基づき、ほ場整備を推進していきます。	A(全部反映)
255	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	雇用就農から独立して、自立する際の支援を手厚くしてほしい。	第6章「産地づくりを支える人材の確保・育成」の具体的な取組において、新規就農者の経営の安定化を盛り込み、取組を推進することとしています。	C(趣旨同一)
256	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	輸出米の生産は、超多収品種で対応するなど、戦略をもって取り組んでいくことが必要だと思う。	輸出用米の生産については、増収が期待できる品種の導入や生産コストの低減など、農業団体等と連携しながら取り組んでいきます。	D(参考)
257	本県農業の展望と農業生産の目標	農業生産の目標	—	肉用牛と乳用牛の産出額の目標値について、県としてあまり力を入れないもののように感じる。	肉用牛については、高齢化や小規模経営体の離農等による飼養戸数の減少が見込まれる中、1戸当たりの飼養頭数の増加や生産性の向上を推進し、現在の東北トップレベルの産出額の維持を目指したものです。 乳用牛については、小規模経営体の離農等による飼養戸数・頭数の減少が見込まれる中、飼養規模の拡大や乳用牛1頭当たりの生乳生産量の向上を推進し、東北の4割を占める生乳生産量を目指したものです。	F(その他)
258	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	食料生産基盤である農地を維持し、次世代にどのようにつなげていくか、という視点を加えてほしい。	御意見を踏まえ、第4章第3節「生産基盤の強化」において、農地の確保と有効利用に係る具体的な取組を追加しました。	A(全部反映)
259	その他	その他	その他	目標を掲げたからには、机上の空論にならないように、具体的な施策を進めてほしい。	本ビジョンは、農業生産の増大や人材の確保・育成などの方向性を示し、本県農業を強化するため策定するものです。 ビジョンに盛り込んだ取組については、毎年度具体化していくこととなりますが、御意見も踏まえ、取組の内容や規模について、毎年度の予算編成において検討していきます。	C(趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
260	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	ビジョンにおいて、「ほ場整備」という文言が書かれていないことが残念だと感じる。	御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、「ほ場整備」の文言を追加し、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 本ビジョンに基づき、ほ場整備を推進していきます。	A（全部反映）
261	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	生産基盤の強化の項目において、畜産の基盤整備が記載されていないが、盛り込む必要はないのか。	畜産の生産基盤である畜舎、機械、飼料基盤等の整備については、第4章の「品目ごとの展開方向」に記載しています。	F（その他）
262	その他	その他	その他	ビジョンに記載されている具体的な施策は「手段」であり、ビジョン策定後も、情勢変化に応じて、最適な手段を臨機応変に取ってほしい。	本ビジョンの実効性を高めていくためには、施策を着実に実施し、その進捗や成果、課題等の把握・分析を通じて、次に実施する施策を見直していくことが重要です。 本ビジョンにおいても、政策評価の取組の実績を踏まえつつ、PDCAサイクルを確立し、設定した指標に基づく進捗管理を行います。 具体的には、設定した指標について、年度ごとにその進捗状況や成果、課題等の分析を実施し、更に必要な対策の追加や見直しを行い、次年度以降の施策・事業に反映します。	C（趣旨同一）
263	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	ビジョンに掲げる目標を達成するためには、生産性を向上させ、1経営体当たりの栽培面積を増やしていく必要があります、そのためにも、基盤整備は極めて重要だと思う。	御意見を踏まえ、「第4章 農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の「第3節 生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 本ビジョンに基づき、ほ場整備を推進していきます。	A（全部反映）
264	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	中山間地域では、簡易な基盤整備を行うなど、地域に応じた対応を取ることが重要だと思う。	第7章「地域ごとの展開方向」の第2節「中山間地域」に地域の特性に応じた基盤整備の推進の取組を記載し、中山間地域等のほ場においてもきめ細かな基盤整備を推進していきます。	A（全部反映）
265	産地づくりを支える人材の確保・育成	—	具体的な取組	ビジョンには第三者継承が盛り込まれており、今後、マッチングが進んでいくことを期待する。	人材の確保・育成に向けては、第三者継承等の円滑な経営継承の推進が重要となることから、第三者継承支援体制の強化について、追記しました。	A（全部反映）
266	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	生産基盤の強化	具体的な取組	米価が下がったとしても、再生産性ができるように生産性の向上に取り組んでいく必要があります、そのためには、基盤整備が極めて重要で、そのための予算確保に努めていく必要がある。	意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の第3節「生産基盤の強化」において、ほ場整備などの基盤整備の取組が重要であることが分かるよう、より具体的な表現に変更しました。 本ビジョンに基づき、必要な予算の確保に努めつつほ場整備を推進していきます。	A（全部反映）

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
267	その他	その他	その他	今後も、様々な機会を通じて意見交換を行い、女性の意見が農業施策に反映されるよう、努めてほしい。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C (趣旨同一)
268	その他	その他	その他	ビジョンの策定に当たっては、生産者だけでなく、異業種との意見交換を実施したとのことだが、策定後も継続的にこうした意見交換を続けていってほしい。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C (趣旨同一)
269	その他	その他	その他	生産強化ビジョンということで、農村振興の視点が薄い、欠けていると感じる。農村振興と農業生産は切り離せないものであり、食料・農業・農村基本法であれ、食料・農業・農村基本計画であれ、こうした思想の下でつくられている。こうした趣旨をどこかにしっかりと記載してほしい。例えば、各種個別計画の一覧で農村政策と産業政策の補完関係を記載するものいいと思う。	御意見を踏まえ、第1章「はじめに」の「農業分野の個別計画との関係」において、生産振興と合わせて、農村振興については、「いわて農業農村活性化推進ビジョン」等に基づく取組を推進していく旨を追記しました。	B (一部反映)
270	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	地域ごとの展開方向	具体的な取組	農村RMOの機能は、新規作物の導入や、特産品の開発・販売だけではない、生産強化ビジョンとはいえ、農村RMOが持つ機能をもっと広く記載すべきだと思う。	御意見を踏まえ、農村RMOが持つ機能に関する記載内容を追記しました。	A (全部反映)
271	その他	その他	その他	試験研究の推進は非常に重要で、広域自治体である県の果たす役割が大きいと思う。特に、人材の育成の視点は重要であると感じている。	地域農業の担い手となる経営体や中山間地域等における農業人材の確保・育成に向け、経営的な評価や経営モデルの取りまとめを行い、市町村や関係機関に提供するなどの取組を進めることとしています。	C (趣旨同一)
272	その他	その他	その他	ビジョンはつくって終わりではなく、その時々時代の潮流に合わせて、臨機応変に対応していってほしい。	本ビジョンの実効性を高めていくためには、施策を着実に実施し、その進捗や成果、課題等の把握・分析を通じて、次に実施する施策を見直していくことが重要です。 本ビジョンにおいても、政策評価の取組の実績を踏まえつつ、PDCAサイクルを確立し、設定した指標に基づく進捗管理を行います。 具体的には、設定した指標について、年度ごとにその進捗状況や成果、課題等の分析を実施し、更に必要な対策の追加や見直しを行い、次年度以降の施策・事業に反映します。	C (趣旨同一)

番号	大区分	中区分	小区分	意見	検討結果 (県の考え方)	決定への 反映状況
273	その他	その他	その他	ビジョンの実現に向けては、県、市町村、農業団体、生産者が連携を取りながら、一体となって取り組んでいく必要がある。	本ビジョンの策定に当たっては、様々な関係者から幅広く意見を聴取するため、岩手県農政審議会のほか、県内全ての市町村や農業協同組合長、生産者や農業団体等との意見交換を実施しました。 ビジョンの推進に当たっても、策定過程と同様、定期的な意見交換を通じ、県と市町村・農業団体等との連携を一層強化します。	C (趣旨同一)
274	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	農畜産物のブランド化	具体的な取組	農産物のブランド化において、地域の重要な品目である短角牛の振興を盛り込んでほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の具体的な取組において、短角牛の振興を盛り込みました。	A (全部反映)
275	農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり	品目ごとの展開方向	具体的な取組	肉用牛に係る具体的な取組として、「菊美翔平」の活用を盛り込んでほしい。	御意見を踏まえ、第4章「農業生産の増大に向けた生産性・市場性の高い産地づくり」の具体的な取組において、「菊美翔平」の活用を盛り込みました。	A (全部反映)